団地／それぞれの住まい歴調査 vol.3

■日時：2013 年 5 月 8 日（木）　15:00~17:00
■場所：男山団地中央センター１階　喫茶 woods&Bonita
■参加者：
◇居住者：
・Ｋさん
◇KSDP メンバー
・星田：H
・安原：Y
・芦田：A

Ｋさん：ぼーっと、この何十年過ごしてきたから…。
Y：それが、それが結構なんです。それがいいんです。
Ｋさん：だからまあ、どうですかね。ふっふっふ。
Y：あの、難しいお話は全然、あのー、欲しいと思ってないんです。あの、お生まれになったのはどちらですか。ご出身は。
Ｋさん：東大阪です。
Y：あっ、東大阪、じゃああんまり遠いとこじゃないですね。
Ｋさん：あ、そうです。それで枚方御殿山に住んでたんです。
Y：そしたらその東大阪からですね少し北へずーっと行かれて、御殿山へ行かれて今はここいらっしゃる。その、辿られたようなことをお話しいただいて、そうしてる内に、男山に２５年いらっしゃるのがどんな感じかということになると思います。あんまり難しくなく。
H：僕たちあのいろんな方にお話を聞かせてもらってあの、こんなことしてるのは、考え方とかここがいい悪いとかというよりは、どんなとこで暮してこられて、どんな経路でここに来られて、んでまあ面白いこととかあの、色んな事ありましたみたいな普通の話を、んでいろんな方の人生がこの団地の中でどうなってるんかなってのが一番知りたいんで、はい、ほんとに許していただける範囲で、プライベートな人生のこうなんか流れみたいなのを。
Ｋさん：まあ私も東大阪で生まれたんですけど、まあー。
Y：東大阪のどこですか。
Ｋさん：あのー、えっと東大阪はえっと、駅で言うたら俊徳道なんです。
Y：俊徳道ね、はいはいはい。
Ｋさん：でそっから５分くらいのとこなんですけど。
Y：あそうですか。
Ｋさん：だからそんなんでこう、電車もですねホームに上がったら次の駅でもう電車がいてるって言うそんな感じのあのー、
Y：すごく便利やったんですね。
Ｋさん：便利やった、ほんでまあ大阪に出るのでもなんでも便利やったんですよね。ほんでまあ、結婚するにあたって主人が御殿山探したんですよね。
Y：はあ、ご主人はどちらのご出身で。
Ｋさん：主人は滋賀県なんです。日野なんですけどね。
カフェ：コーヒーか紅茶…。
Y：あっ。そや、それ言わなあかん。
一同：笑（それぞれ注文）
H：あそうか、結婚して御殿山へ来られたか…。
Ｋさん：そうなんです。んでまあ、今すごく電車も 10 分置きとかできますよね。
Y：御殿山ですね。
Ｋさん：はい、あそこ各停なんですけどね。あの、あの頃もっと時間が長かったように思うんですよ。
Y：間隔が？
Ｋさん：一本の、はい。それで来た時にこんなえらい不便なと思ったんが、ふふふ、最初なんですけど。
Y：それそうでしょうね。
Ｋさん：もう向こうだったら 5 分ぐらいで来るんですよね。
Y：ふんふん。
Ｋさん：そんなんでこっち来たらもう 15 分くらいなんですかね。
Y：ふんふん。
Ｋさん：それでこんなん不便なと思いつつ。
Y：そうですねその違いすごい大きいですよね。
Ｋさん：はい。だからその頃は夕日見ると悲しくなってくるっていう。
H：はっはっはっ。
Ｋさん：ふふ、そうゆう感じでね。
H：割と団地来る人は悲しくなる人が多いですね当時。ふっふっふ。最初はなにもないから。
Ｋさん：ふっふ。
H：だんだんね、愛着が出てきたり。
Ｋさん：だからね、主人が 1 人で探したもんですからね、その家がまた、近くの工務店が建てられたんで、ものすごく安くというんですかね、畳６帖いうたら、６枚とも畳が違うっていうそんな感じの畳やったんですよ。
Y：うん。
Ｋさん：だから初めは、私も母も、あんな畳見たことないいうたぐらいの、長さはなくて幅は狭い。
Y：はいはいはい。
Ｋさん：この幅でいうたら短い。
Y：もう見ただけでそんなに違うくらい違いました。
Ｋさん：はいもう、あれだったですね。
H：それは御殿山のお家がですか。
Ｋさん：そうです。初めに。
H：戸建てですか。工務店のってどんな。
Ｋさん：あの普通の近くの工務店が建てられて、
H：はい。

Ｋさん：で私らが借りた後、戸建て社宅になったみたいですけどね。
H：ほんならアパートみたいな。
Ｋさん：文化住宅。
H：文化住宅。
Ｋさん：ほんでまあ、一棟は全部久保田鉄工の新しく入った人の社宅になってた。
Y：ああなるほど。
Ｋさん：ほんでうちだけが違うかったんですけどね。まあそういうとこで、でも雨が降って、大雨が降ったら、船で、家の前まで来るっていう。
Y：ええっ。
H：え？
Ｋさん：川が増水して、
Y携帯：♪（電話で退席）
H：御殿山ってそんな淀川に近い場所なんですか。
Ｋさん：はいほんであそこにイズミヤありますよね。
H：はあ。
Ｋさん：あそこからずっと坂になってるんですよ。だから要するにもう低いんでしょうね。だからお医者さんが中に入っていくのは船でこう入って行ってっていう、そんな感じやったんですよ。
H：ふーん。
Ｋさん：ほんでまあ、あの頃初めてできたばっかりやから200件くらい文化住宅がある中に建った。島みたいなとこやったんですよ。
H：はあ。
Ｋさん：でボヤが出るとかなんやらあったら一カ所しか行くとこないんですよ、川、橋があるんですけどね。
H：はあはあはあ。
Ｋさん：またこれも不便で、夜にその時もなって、どるするって、消防車も来て、そんな感じやったんですよ。
H：ああ…。
Ｋさん：だから、
H：それでもそこ興味あるな。水がそんな増えて、床の上の浸水まではいかないんですか？
Ｋさん：もう際まで来ます。
H：ギリギリまで来ます。
Ｋさん：あの―…。ちょっと高くしてるんですよね。
H：はあはあ。
Ｋさん：でもう、ギリギリまで来るんですよね。道路からちょっと入って、もうそんなんで。もう、家もそうですし、雨降ってもそうですし。
H：はいはい。
Ｋさん：まああんまり、あんまりいいことはなかったですよね。もう初め入った結婚するちょっと前やったかな。泥棒が多くて。
H：そちらには何年お住まいなんですか。
Ｋさん：えっとねえ。うちの姉が幼稚園行く時ですから5歳ですね。
H：あっ、えっとあ、あー、娘さんが5歳くらいまでそこで、
Ｋさん：幼稚園入る、入った年ですね。
H：はあ、ほんだら５、６年ですかね？
Ｋさん：はい。
H：娘さんが幼稚園…。あそうか幼稚園に入ったころに。
Ｋさん：そうなんですね。でその頃、男山ができて、47年くらいにここで来てるんですかね。で近所の人が順番に引っ越しされていくんですよね。
H：はっ、へー、あそうですか。
Ｋさん：まあお友達が。でそしたら男山行こう男山行こうゆうてですね、でそんなんで家も探してたんですけど、そんなんやったらいっぺん申込もかいうて申し込んだら補欠で当たったんですね。
Y（電話から戻って来て）：その頃当たりにくかったんでしょ。
Ｋさん：はい、でまあここに来た時はそこに住んだ時の家賃が、倍近かったですかね。
Y：うん、あっあの、御殿山に比べて？
Ｋさん：はい。そうですそうです。倍近かったですね、でまあ初めはここ来た時は綴喜郡だったんですけど、でどんなとこかなって思ったんですけど、でもすぐに変わったんですけど。
Y：あっ、そうですかそうですか。ふんふんなるほど。
Ｋさん：はい。
H：それ昭和何年くらいですか。
Ｋさん：あれはね、ごじゅ…娘が…。50年51年？51年です。引っ越したんがそれぐらいです。
Y：そうですか。
Ｋさん：ほんでまあ来た時は一番前の2棟に当たったんです。今住んでるのが私が2棟なんですよ。
Y：はい、はい。
Ｋさん：それで、便利で、どこ行くのも、それで今までここできてしまったって感じなんですよ。
Y：なるほどなるほど。
Ｋさん：それでまあ、何回か主人が家を買おう買おう言うんですけど、なんか景色もいいし小鳥もなくし、四季折々の周りが、ほんでずーっと人もいいし、っていう感じでここまできてしまったんです。
Y：それでずーっと心地よく住まわれたんですね。
Ｋさん：そうですね。あのー、よその棟はわりと個性的な人が多い所もあるんですよ。けどね、でも2棟はねそういう人ってまあないんですね。
Y：なるほど。
Ｋさん：でー、私も含めて今、あの棟10軒ありますよね、間にね。初めからいてはる方は、3軒いてはるんですよね。
Y：今現在。
Ｋさん：建った時から。
Y：あっ、最初から、ほー。
Ｋさん：そうですね。でまああんまりまあ私で35年くらいですから、まあ。
Y：まあほとんど最初みたいなもんですよね。
Ｋさん：そうですそうですね。だから新しい人でももう10年以上ですね。
Y：はあそうですか。
Ｋさん：あの階段あまり、そんなんでゴタゴタないもんで。
Y：古いお仲間ですもんね。
Ｋさん：はい。だから、あんまり人のことも介入しないですけど、まあ会ったら色々と話しますし、って言う感じですし、心地よいですしね。で環境もそんなんで。
Y：うーん。

Ｋさん：でまあそんなんでずっと居てしまったっていう。
Ｙ：あそうなんですか。
Ｈ：あの階段の 10 軒の中がやっぱり、個性的な人いないで、わりと大事な単位ですかね、影響が大きいですか。
Ｋさん：やっぱり、はいそうですね。居心地の悪いとこもいっぱいやっぱりあるみたいですよ。
Ｈ：同じ階段ですしね。
Ｋさん：私とこなんか、なんかしようういうた時はみんな嫌とは言わないですね。もうそうしようって、そんな感じですね。
Ｙ：だいたい、何ごとももう 10 軒単位で相談してっていうのは、そんな生活の仕方になってくるんですね自然と。
Ｋさん：あ、そうですね、自治会がどうとか言うた時は 20 軒ずつなんですけど、あたしの方は 30 軒なんですよ。
Ｙ：あそうですね、階段室ですね。
Ｋさん：そうです。まそう…。そうですね。このごろまあ自治会に入られる方も、少なくなりまして、うちの階段でももう２人しかいないですから。２軒ですか。
Ｙ：はあ、そうですか。
Ｋさん：はい。まあ全体でいってもまあ少ないですね。
Ｙ：でもずっと居らっしゃる方は、自治会にいらっしゃらないんですか。
Ｋさん：あ、あの自治会はそんなに色んな活動はしませんよね。でまあ役も当たるってこともあるんですけど。お勤めもされますでしょ。でまあそういう、月に一回か二回ってあるんでそれも嫌というのもあるし、やめられる口実は子供が大きくなったからもう辞めるって言いはるんですよ。それとは別と思うんですけど。
Ｙ：直接はね。
Ｋさん：そういうのんでやめられるんですよ。
Ｙ：みなさんそこでお子さんを大きくされたっていう方がほとんどですか。
Ｋさん：まそうですね。下…。私とこもまあ古いですけど、まほとんどそうですね。子供さんの居てはれへんま 10 軒のうち９軒ですけど、１軒は空いてるんですけどね。１人の人は一軒はまだ新婚さんですね。
Ｙ：そうですか。
Ｋさん：まあいうてもまだ３年くらい経ちますけどね。
Ｙ：ふん。
Ｋさん：で、あと上の方は私と同じくらいの年ですかね。まあその人は途中からですから、いうても１０年くらいなると思うんですけど。
Ｙ：ふんふん。
Ｋさん：それ以外はみな、あそこで子供まあ子育てをだから私より後から入ってきた人は子供さん、上の方で二十歳ですかね、はい。
Ｙ：んー。
Ｋさん：そんなもんですね。まだ二十歳前の子ですね。
Ｈ：そしたら大体同じ小学校ってことですね。
Ｋさん：そうですね。やっぱり、中学校、小学校から中学校へ校区が変わったりすると子供がやっぱり色々難しくなってきて、きますでしょ。それで躊躇することもあるんですよね。で、うちの子が小学校、幼稚園に入った時にやっぱり、あの頃子供さんがようけ居てたんですよ。
Ｙ：大勢大勢ね。
Ｋさん：はい。でそうするとそれこそいじめじゃないですけど、そうゆうのにうちの子があったんですよね。２人が。んであーそれでその時はここに引っ越したん失敗かなって思ったんですけど。
Ｙ：ふーん…。
Ｋさん：まあ子どもさんでもいろいろいてはりますからね。
Ｙ：ふん。
Ｋさん：まあそういう人が引っ越しされて、あーよかったよかったと思ってね。その時はほんまにね、３年か４年くらいもう失敗したかなーって思って。
Ｙ：ええ。
Ｋさん：ほんでいっつも子供にはね、そういうのがあっても意地悪はしたらあかんでって、のけ者にしたらあかんでってそういう風に育てたんですけどね。
Ｙ：守ってくれるお兄ちゃんがいることとかもありますしね。
Ｋさん：はい。で入った年齢が幼稚園っていうところが悪かったんですよね。
Ｙ：んー、なるほど。
Ｋさん：扱いにくいですよね幼稚園くらいだったら。もうちょっとちっちゃかったらかわいいかわいいですし。だからそういうこともあったんやと思うんですけどね。年齢が近いって、そんときはすごいあれでしたけど、まあその後は、のんびりと、いいとこやなってすごしてきたんですけど。
Ｙ：やっぱり子供さん育てられるということは大きな出来事ですねえ。
Ｋさん：そうですかねえ。でまあ稽古行くのでもやっぱり近くに、今はまあ人数が少なくなってそういう教室っていうのはあれですけど。あの頃は色々あったんです。そろばんにしてもバレエにしてもそういうのは全部ここらへんにあったんですよね。だからそういう方において助かりましたね。
Ｙ：このごろはなんか勉強しに行く塾ばっかりで、そろばんなんてそんなのんびりしたのはなくなってきましたよね。
Ｋさん：ああそうですね。でもそろばんは良かったんやないかなって思ってるんですけど、はい。
Ｈ：バレエとかそろばんってどこにあったんですか。こういうやっぱりセンターとかに。
Ｋさん：はい。えっと…。そろばんはえっとどこでしたっけ。この真ん中の。
Ｈ：団地の中ですか。
Ｋさん：はい。あったんです、ダイコクビルっていうこの病院の筋の一つ中に入ったとこやった、でそこにあったんですけど、そこのキリン堂ってあるでしょ、あそこのちょうど結んだとこにあったんですけど。でバレエはもう集会所であったんですよね。枚方の市民会館ですかね。
Ｙ：そういうのが本格的な。
Ｋさん：あ、まあ、高学年になってきたらねぇあれですから。
Ｙ：うん。
Ｋさん：それとかちょうと白川とかですね。

Y：おお、遠いところに。
Ｋさん：そういうように順番にこうまあ行くんですけど。
Y：なるほど。
Ｋさん：だからまあ、小さいうちは親があれですけど大きくなってきたらまあ一人で、
このごろはまあちょっとややこしいから、そういう子供だけで行かすっていうのはちょっとややこいし心配ですけどね。
Y：うん。
Ｋさん：あのころはそんなことなかったからですからねえ。だからまあ気付けて行きなって言って、行く、送り出すぐらいで。あ、はい。あれでした。
Y：まあなんかお聞きしててもすごくゆったりした、あのほのぼのした、その一雰囲気が感じ、感じられますね。この場所そんなんだったんですね。
Ｋさん：そうですねぇ。最近はちょっとねぇ変わってきました。
Y：変わってきましたか。はっはっはっは。
Ｋさん：ちょっと変わってきましたね。
でもまあ私のところは階段、そういうのが無いから私は分からないんですけど
他の階段とか棟とかになってくるとやっぱり新しく入って来られたっていう方がね。
やっぱりこの頃は誰でも入れるっていうんですかね、あの私みたいなとこ審査みたいなんがあってほんでまあいろいろあったんですよね。入りにくかったってのがあるから割にいろんな人がいてはったんですけどまああのころ職業にしても、
Y：ええ。
Ｋさん：いろいろな人いらっしゃいましたしね。はい。子供だったらそうじゃなく、なんでも主張するっていうんですかね。いろんなことを、あ、はい。でもう若い人がどうとかいって、若い人の方がものすごい愛想がいいんですよね。あいさつもしはるし、で歳いった人が入って来はるとなってくると、道で会っても顔を背けて通りはるってそんな感じ。んでそうかと思ったらわぁってそういう方おったらこの人何年前からいてはるのって感じの人ですかね。２つですね。歳いってきたら。
Y：なるほど。
Ｋさん：あ、はい。その人らが言いはることいったらここは程度が低いっていうんですよ。でね、入ってきて、そんなにもたたへんのにそんなん分かるんって私は思うんですよ。
Y：うん、うん、ええ。
Ｋさん：程度が低い。あ、はい。で自分の住んでるところとかいろんなこと言いはるんです。でも私の中では見に行っていないから分かりませんよね、何を言いはっても。だからまあ話半分でもいいんちゃうのって友達と話してるんです。
Y：まあまあそれはそうでしょうね。
Ｋさん：だからまああれですけど、でも気分よういてるのに外から入ってきた人にそや言われたらなんか気分悪いな、はっはっは、ってほんとにうつるんですけど。
H：いろいろ種類の違う人の相手をしなければいけない。
Ｋさん：あ、はい。でこう、人、お花でもまあしてますよね、私もしてるんですけど、そうするとよそのところがいい、自分とこのとこですればいいと思うんですけど、そうじゃなくって今までしてはるところんとこ行って一緒にしたいっていう。
Y：うん。
Ｋさん：んでそれはどうしてかなって思うとお水やりとかいんなことはその人がされるって、自分が置いとくっていうんですかね。
Y：うん。
Ｋさん：んでその人が管理してくれる。
Y：はいはいはい。
Ｋさん：そういう感じですね。はい。それでなんかちょっとややこしくもめたりしますね。はい。
Y：なかなかあのうまく混じって、混じり合ってこないんですね。
Ｋさん：そうですね。
Y：うんうんうん。
Ｋさん：でまあ大概そういうあれなんですよ。新しく入って来られたいいはる人は。そう言いはるんですよ。
Y：ええ。
Ｋさん：でまあ何年か経って出ていかはるときに、うちはいいとこやったって言って出て行かれるんです。
Y：うん。
Ｋさん：でも初めに入ってきたときそれをいいはるんですよ。なんでかなあって思って。
Y：なるほど。うん、うん。
Ｋさん：そうなんです。
Y：ああそうですか。
Ｋさん：住んでて住んでていうのは分かるんですけどね。そうじゃなくって入ってまもなく言われるんですね。だからまあ自分なりの何かがあるんでしょうね、何が低いんか知らないんですけどね。
Y：うん。
Ｋさん：そうですね。
H：あの何階にお住まいですか。
Ｋさん：私２階なんです。
H：あ、２階。
Ｋさん：はい。だから２階の端ですからあのすごくあの今若葉でしょ？
そうするともうすごく、はい。
H：はいはい、そうですね。
Ｋさん：私いつも言うんですけど、うちんとこの庭、裏庭をよその人がたまに歩いてはるっていつもいうんですけどそれぐらい好きっていう、すごくきれいんです。
Y：そうですね。それはもう全部自分とこのために木が生えているようなもの。
Ｋさん：そうですね。ほんであそこ段がありますでしょ？１０棟か１１棟か上の、１０棟までが下の段なんですよね。ちょっと、そうすると木も大きくなってきてその団地の上の棟の方が見えないんですよね。夏なってきたら。
Y：はあはあ。
Ｋさん：そうするとほんま自分とこの庭玄関ですね。冬場は違うんですけどね。
Y：なるほどね。こちらに入られてから周りの景色がずいぶん変わりましたね、木も育ったと思うし。

Kさん：ああ、そうですね。でも今京阪園芸がされてるんですけどね、それもあれはなんかもうすごく伸び放題やったんですけど、京阪園芸が入られてから剪定されるんですね。そして剪定をすごくきれいにしてくれはるからいいんですけど、春にうぐいすが鳴くんですけど、うぐいすが今年は二回しか聞かなかったんです。だからいいような悪いようなね。

H：剪定し過ぎたんですね。

Kさん：はい。でもまあそれの方があれなんですけどね。うぐいすが聞こえないなあって。

Y：ああそうですか、うん。

Kさん：はい。で今うぐいすねえあのこう鳴き方を練習してるなあって話するんですけど、今年はもうなかったですね。それはちょっと寂しいですかね。

Y：ああ、なるほどね。

Kさん：でも今すごく剪定もお掃除もですね、草刈りですね、それも何回もされてたんでものすごいきれいなりましたね。そうでなかったらもうよその人呼ばれへんっていうんですよ。葉が背丈ぐらいになってくるとか言ってね。でもっとしてくれればいいのに、でもまああの頃２、３回ちゃうんですかね。この頃はもうちょっとあるみたいですけどね。

H：引っ越した当初の頃は木、木はもうなかったんですか。

Kさん：あっ、あったんですけどまあ低いですよね。だからそんなにまああれですけど。
まあ 30、私 35 年ですからそりゃあ木もね。

Y：そりゃあそうですよね。

H：ですよね。33 年やったらほんまに。

Kさん：すごく。でも何年か前に１棟の前にベランダ側ですね、もみじの小道やなんかそういうきれいに整備されたことあるんですよ。芝生もきれいにして花壇もされて、で長椅子も置かれたんですね。まあここはわりに間隔は１棟間隔は広いんですけど、その公園じゃないんですけどそういうようなことされてもそれではちょっと狭いんですよね。

Y：はいはいはい。

Kさん：んで長椅子があのしてるのはベランダ側向いてるんですよね。んでそこで座ったらよその洗濯物とか嫌ですよね。よその人も。そうなってきたらみんな座りませんしね。

Y：うん。

Kさん：だからあれが道路の方を向いてたら、またいいことあるんですけど。

Y：うん。

Kさん：でもベランダ側の方に長椅子を置いてるもんでね。

Y：なるほど。

Kさん：はい。結局まあ座った方いないんじゃないんですかね。

Y：ああ、せっかく作っても作り方が。

Kさん：そうですね。

Y：うん、そこでそれは今どないなってます？

Kさん：今はあのまあ別に草ボーボーにはなってないんです。けど近所の人１階の人がですね、お花をしたりしてですね。まあそういう全部するのにはちょっとあれですから、あのそのきちっと花壇にしてやるところは空いたままなってるんじゃないですかね。

Y：なるほどね。まあここの良さっていうのはいま伺ってもなんかそういう環境の良さっていうかが、一番印象に残っていらっしゃるような、あのそういう感じですかね。。

Kさん：そうですねぇ。だからあの。

H：A くん地図は？地図は？

A：あります。

H：あのね 2 は 2 棟ってどのへんですか？

A：僕もおんなじとこ住んでます。C2 の 402。

Y：そこやな

H：そうか、おんなじとこなんだ。もう子供さんはもう、でもどっか出られてるんですか？ご一緒ですか？今。

Kさん：いや、２人いてるんですけど上の子はまだ家にいてるんですけど、下はあの香里園、香里の成田山。香里の成田山まあそこのところに住んでるんですけど、でもまああそこは昔から、言ったらあかんことですけど、私はちょっと道路幅も狭いですし商店街がないんですよね。あそこ。成田山は大きいんですけど。でもそういうもんにおいては不憫ですよね。

Y：あ～なるほどね。

Kさん：だからまあ香里園の駅とかですね。

Y：駅まで出てくるんですか？

Kさん：はい。それでそれ上がって車でもうちょっとね。行くんですけど。

A：あっそこは違う。

Y：あそこ狭い道をバスがバーっと通ってますね。

Kさん：そうですね。

A：すぐそこで。

H：えっとすぐそこ。

Y：そこや。

H：あっ、コーヒー。

A：こう向きですね。

Y：こう向きやな。

H：ああ～便利やな。

Y：そりゃあ便利。

A：便利な場所です。

H：ああそうか、ここだったのか。M くんも住んでた。ずっとここに。便利やね。

A：あっ、N さんですか？

Y：N くんね。一緒。

A：そうです。同じところです。

H：そっかそっか。そんないいとこあたりました。

Kさん：はい。もう最初にね。でまあいろんなところがこの商店街にもありましたんでね。便利やったんです。

Y：以前はここもっとお店たくさんあったんでしょ？

Kさん：ええ、隣はお好み焼屋さんですよね。

Y：ここはね。はい。

Kさん：パン屋さんもありましたし。一番端ですね。

Y：あのこの向こう、今あのちょっと八百屋さんとかあのー、米屋さんとかなんかありますよね。あのへんもずっとお店やったんとちゃいます？

Kさん：お米屋さん、あっ、あそこも今マンションですよね？

Y：はい。マンションの下。

Kさん：フードセンターっていってショッピングセンターやったんです。

Y：ああ、元。
Ｋさん：はい。んであったんですけどライフできましたよね？それでこっちはもう。
Y：ああ、こっちじゃなくて向こうに買いもんに行かれたと？
Ｋさん：はい。んでもうマンションに変わってしまって前からいてはる人が、あのあれは自分らの土地なんですよね。あの入ってるばっかりでの土地やったんですよね。それをこう裏で、で何人か何軒かそこでお商売をするっていう。
Y：ああ、ああそうですか。向こうができたからちょっとこっちがさびれたというかなんかそんな
Ｋさん：え～っとさびれるというより前にまあ出来てますけどその前からもう出来るというのがあったんでもうやめようというそんな感じやったですかね。
Y：あ～なるほど。
Ｋさん：でも便利で良かったんですけどね。フードセンターって市場みたいなもんですから。
Y：うん。
Ｋさん：はい。それできるまではここができたとき頃はもう商品がなんぼあってもあんぼあっても良く売れて。
Y：おお～。
Ｋさん：あのパン屋さんでもですね。仕入れても仕入れても売れたっていう、すごい時は。
Y：ああ～そうですか。
Ｋさん：はい。
Y：それは今はどうしてあんまり売れなくなってきたのかな、人が。
Ｋさん：それは、まあそう。
Y：子供達いなくなったから。いろんなことあるけど。
Ｋさん：はい。でもまあマンションできて１０年ぐらいは経つと思うんですけどこのマンションですね。はい。
Y：すごい、そしたらその子供さんが大きくなられた頃とかいう頃はものすごい活気があったというか、そういう感じでした？
Ｋさん：そうですね。子供さんも結構いらっしゃいましたしね。今はまあ自分とこ関係ないですけど、でもあの棟全部小学生の時何人かしか居てないんじゃないんですかね。
Y：現在？
Ｋさん：はい。うちの棟、階段居てないでしょ。隣の階段は１人か居てはるかな？ぐらいですね。んであの住んではるところは。
A：僕のお隣さんがちっちゃい子がいます。
Ｋさん：はい。
A：まだ赤ちゃんみたいなぐらい。
Ｋさん：小学生が１人ぐらいって思いますかね。
A：ほんまですか？3 階ですか 2 階ですか？
Ｋさん：ん～それぐらいですかね。この頃ねもう入って来られてもね、あのあれ値札が、値札がいうて、うっふっふっふなんの間違い、名札がねえ、なってないんですよ。
Y：出さない？
Ｋさん：出さないんですね。んで私んとことか古かったら出してあるんですね。もう最近やはり個人がどうとかってなるんですよね。そんなんでややこしくないんですけどね。
Y：そうですね。ほんとに名札がないっていうのはなんとなく不気味ですね。
Ｋさん：はい。んで入ってはるのか入ってないのか分からへんのですよ。だからやっぱり表札ってちょっとした、だからよそのあの郵便物も間違って入ったりするんですよ。郵便屋さんも分かれへん。
Y：分からへん。
H：うん。
Ｋさん：はい。んで分かってるときはもうそこのとこまで行って郵便受けに入れとくんですけどね。
Y：すると当然引っ越しして移ってきても、挨拶に回るということはあんまりないですか？
Ｋさん：あっこの頃ね、あの自分とこの前のお家と、んで下のお家ですかね、なんからしいですよ。
Y：ああ、それが。
Ｋさん：あっても。
Y：そういう習慣が、新しい習慣ができたんですか？
Ｋさん：なんかもう引っ越しされる、引っ越しというかことのまあせん、前の人と下の人ぐらいは挨拶しとかなあかんっていうのがあるんでしょうかね。
Y：うん。
Ｋさん：はい。なんかまあそれもいい方らしいですけどね。
H：うんうん。
Y：ああ、それでもね。
Ｋさん：はい。
H：なんか子供が足音がしてますもんね、下は。
Ｋさん：あっはいはい。
H：それで下に挨拶するんか。
Ｋさん：んで今はフローリングになってますよね。新しくなって。
Y：はい。
Ｋさん：そうするとあのフローリングってものすごい音が聞こえるんですよ。
Y：はいはい。
H：そうですか。
Ｋさん：んであのまあ聞かれてしまうとあれですけど、まあ玄関とかね、板の間とこでもやっぱりちょっと音したら、
もう何を落としたってぐらい響きますね。
Y：はいはい。
Ｋさん：んでフローリングってゆうのはもっとあれなんですけど。
Y：うんうん。
Ｋさん：で、そういうのでこう、一応気にはかけてるんですけど落としたらあかんと思ったら落ちるんですよね。
H：ふふふ。分かります。
Y：まあだから、下の家には挨拶に行って、まあそのことですよね。
Ｋさん：そうですね。
Y：ま、ここもこういうプレファブだからやっぱ音も響きやすいかな。
Ｋさん：だから、もうフローリングは良いような悪いような。あのー、この集合住宅でっていうのはやっぱり下の家にやっぱ響きますよね。普通のマンションでも響

くって言うのは聞いてるんですけどね。う
Y：ええ、そうですね。うん。
Kさん：それでまあ、自分とこもそうなんだけど、あとから入った人が上の人を追い出したっていうのもあるんですよ。
Y：ああ、うんうんうん。上へ集まったおかげでね。
Kさん：で、自分とこの迷惑かけてるのは下の人は分からないって言いはるんですよ。それでも先に入ってきた人が引っ越しされていく。
Y：まあそうだね。うんうん。
Kさん：でも古い人っていうのはまあ、そんなのこういう住宅だからとかいろんなことを思って我慢するとかいろんなことがあるんですけど、もう後から入った最近の人は違うんですよね。
Y：そうですね。あの、子供たちがみなたくさんいた時はね、多少お互いさまというかそういう気持ちがね
Kさん：そうですねピアノ弾いていてもね、どうってことなくてそれも遠慮して弾いてる。時間を決めて弾いてるっていう感じやったんですけどね。
Y：ご近所の関係でね、少し気を使うとか、そういったことはやっぱり足音ですか？そのまあ、人間関係がどうっていうのはちょっと違うけど。
Kさん：そうですね。そうなりますね。だからあの、大人になってきたらペタペタっていうのはないんですけど、小さい時はペタペタペタペタってありますよね。そうするとうちが小さい時にペタペタって歩いてると、下のお家が今マコちゃん歩いてたね、ようわかるってこう言われたんですけど、それもペタペタペタペタっていう音が板の間のとこは
Y：あれ気になりますね。
Kさん：でもまあ下の家も３人いてはりましたからね、そういうものは言わはりますけど、なんやかんやとは言わはらないですね。
H：顔見知りかどうかで同じ音でも違いますもんね。
Kさん：はい。
H：腹立つかどうか。知り合いやったらそんなに気にならないですよね。最初御殿山でお住まいだったころは、わりと川に近いレベル、低い場所にあって、川が増水したら床上ぎりぎりまで、床下ぎりぎりまで水が来るからその間は船で生活するんですって。面白いなこれって。
Y：あー、へー。
Kさん：はい、送ってくれるんです。
Y：なかなか風雅な感じがしますけど、実際は大変でしょ？
Kさん：はい。
H：お医者さん行くのも船で。いっきょに丘の上ですもんね、ここは。
Kさん：そうです、はい。ここはもう、台風が来てもね、何をしても、全然もうびくともしないという感じで。
H：そうですね。うん、なるほど。
Kさん：そういうまあ部分も安心感がありますね。はい。
H：ご主人はお勤めはどちらの方でらっしゃいましたか？
Kさん：主人は本町やったんです。
H：本町？
Kさん：はい。
H：ここからやったら
Kさん：そうですね、でもまあわり終電、うちの主人は帰ってくるのがいつも遅かったんですよね。もう 12 時前くらいですかね。遅かったらもう午前っていうのは結構あったんですよ。それでもう電車が無かったりすると大阪からタクシーで帰ってきたり、で、もしあれやったら私の実家がむこうですから電車が長いことありますでしょ。それで電話かけて向こうへ泊まりに行ったりはしてましたですけど。はい。
Y：あーそうかそうか。
Kさん：でもまあ、男山でもここが一番便利じゃないですか？
Y：それはまあそうでしょうね。
Kさん：ここじゃなくって、でまた 2 棟じゃなくって、もうちょっと奥の方に入るとかね、で、違うとこやったらたぶんここまでいてなかったと思うんですよ。
Y：あーそうかそうか。
Kさん：はい。であの、夜子供たちが帰ってくるのがですね、遅くてもすぐでしょ。バス降りて、で明るい所で。
Y：向こう見えてる感じですもんね。上からね。
Kさん：はい。そうです。でこの頃はまあ日もあれですし、ラウンジができたりするので見えなかったですけど、前だったら上から見てるとバスをずっと見てると、「あ、帰ってきたな」みたいな感じで。まそういうわけでありましたですけどね。
Y：そうですね。これは男山の一等地やな。
Kさん：だから、上の方行くと街頭もそれほどでもないですしね、で公園があったり街頭が少なくて暗いですね。
Y：ええ。
Kさん：でまあそうすると怖いですし、私怖がりなもんですからね、であれなんですけど、そうじゃなかったらたぶんこんなにいなくって引っ越してたと思うんですけど。
Y：だから、ということは、このセンターというのはなんかすごい良い存在なんですね？まあまず便利やとか安全やとかいうようなことを含めて。
Kさん：はい。そうです。
Y：それでまあそれも、適度にちょっと離れて間に木が生えているとかっていうようなこともあるからかもわからないけど。やっぱりセンターってすごい便利に使ってらっしゃったんですね。今までに。
Kさん：そうですね。だからお友達なんかは「もうここは離れられない」って言うんですよ。で、ご主人もここほど良い、まああちこち転勤とかで住まれたりしますでしょ？だからね、ここほど良いとこは無いってご主人が言いはるんです。
Y：なるほど。
Kさん：はい。
Y：この団地から外へ出て、どっかその辺に行きますとね、あの、僕らが来てもちょっと歩いてみようかというようなとこがありますけどね、そういうもんとは歩いたり散歩したりというようなことでしょっちゅう接触していらっしゃいます？この街を向こうへ下りることを。こっちへ下りることはわりにあると思うんですけど。
Kさん：向こうへ下りることはあんまりないですね。まあ市役所に行くとかですかね、ふふふ。まあそのような

感じで。向こう行ってね、帰ってこようと思ったらバスで乗ります。バスでしょ、歩くとか、そうすると遠いんですよね。で、バスもなかなか来ないんですよ。でもどんなに田舎に来たかなっていつでも思うんですよ。

Y：あー、また田舎に戻るわということですね。

Kさん：はい、不便やなーとか思ってですね。

Y：ここまでは便利やと。

Kさん：はい、ここまでは便利で。中央センターはなんでも乗れますから、はい。で仮に来なかっても一つ手前の公園前で降りたら、そしたらもういっぱいありますからね。

Y：そこで曲がるやつがあるね。で、もうそこで降りればいいですね。

Kさん：で、もうここ2分くらいですからね。だからね全然もう

Y：あそうか、だからこの山を越えて向こうはやっぱり急に田舎になる。

Kさん：もうどうしても行かなあかん時は行くんですけど、でまああっちにあの、どういうんですかね、クリニックとかそういう所はあるんですけど、でもそこ行く時でもなんか樟葉向いて同じような時間なんですけど、まあ20分くらいかかるんですかね。でも気分が違うんですね。

Y：うんうんうん。

Kさん：下に、向こうに行くのとこっちに行くのでね。気分がですね。もうだから明日行こう明日行こう明日行こうと思いつつなかなか・・・、でもやっぱり行ってこようかな―と思って行くんですけど。

Y：あーそうか。それ同じようなことを皆さん思っていらっしゃるのかな？やっぱり気持ちは、樟葉の方へ気持ちは行ってます？

Kさん：あ、やっぱりそうですね。

Y：うーん。

H：まあ気分的にはやっぱり八幡市の一員という気持ちよりはもうこっちということですね。気持ちは。

Kさん：あの、買い物はまあやっぱり、こっちまあ、あんま無いですよね。

H：無いですよね。つながりがないですよね。

Kさん：イズミヤとかはあるんですけど、でもまあ、イズミヤに代わるものはこっちにありますしね。だから・・・

H：ここは住所が八幡市で税金は向こうに納めてるということだけど、生活とか気持ちはもうやっぱりこっちの方？

Kさん：そうですね。はい。もうちょっと

Y：でも地元の人が野菜売りに来たりするんじゃないですか？野菜の市ができたりするっていうのは聞きますけど。

Kさん：あの、京都銀行の前にね月に1回くらい、最近になってね去年くらいですかね、なんかあるんですけど、でも、その時の状況によって多いとか少ないとかあるらしいんですよ。で、私も1回しか行ったことないんですけど、初めのころは自動車がダアッときたらたまってるんですけど、この頃はあんまり止まってへんかったりするんですよね。

Y：それは自動車は買いに来る人？

Kさん：持って来られる方です。

Y：持ってくる人。はあはあはあ。

Kさん：で、そんなんでこの頃少ないんと違うかなと思ったら余計行かへんですけど。

Y：うんうんうん。それは買ってあげないからじゃないですか？ふふふ。

Kさん：そうですね。ふふふ。でもまあここね、タケノコ山って八幡山ですけど、あそこはずっといつも行くんですけど。今年はまあ。

A：タケノコが有名らしいです。八幡のタケノコが。

Y：そうそうそう。

Kさん：タケノコも今年は不作でですね、でまあ出てこなかったんですけどね。

Y：今年？

Kさん：はい。

Y：あー。

A：へー。

Kさん：でも、毎年もう飽きるくらいタケノコ食べるんですよ。はい。もう、上のUさんと何回行くかというくらい行くんですよ。

Y：まさに地元産のタケノコ。

Kさん：はい。

A：すぐ近くですね。裏って感じです。

Kさん：そうです。もうあの車で八幡山に登る際のところでね。いつもそこで買うんですけど。

Y：なるほど。下で売ってるわけですね。その下りてきたところの。

Kさん：その堀りたてを買うんですけどね。

A：へー。

Kさん：であの久御山は今ブランドにしようといって力が入ってるらしいんですけど、こないだそっちの方いただいたんですよ。でタケノコのお刺身にしてね、主人にそれは言ってなかったんですけど切って出したら「このタケノコ食べてみ」って私に言うんですよ。で「なんで？」って言ったら「このタケノコは水臭い」って言うんですよ。

Y：ほう。

Kさん：で、みたらほんまにみずみずしい感じですよ。ここで買った分はいつも買うと、ものすごい甘みがあってね時期的には同じくらいなんですよ。でまあどこでも入れてはるんですけど、肥料をこっちのところは毎月入れてるって言いはったんですね。で、よそは入れてはるけど毎月はよそは入ってないとかって言われてたんですけどね。

Y：栄養が足りてないってことですね。

Kさん：甘みがね、全然違うんですね。

Y：あーそうですか。へー。

Kさん：はい。あの家庭用の分であってもね。進物用じゃなくって。で、主人が「これはあんまり良くないな」とか言って。で、「これは久御山の方のやで」って言ったんですけどね。はい。やっぱり味がね、全然違うかったですね。

Y：なるほどね。

Kさん：でもブランドとかでは向こうの方が強いんですけどね。こっちよりね。八幡よりはね。

Y：あ、そうですか。
Kさん：まあすごく力が入ってるみたいなんですけどね。
Y：なるほど。なるほど。
Kさん：だからそういう部分で良いとこです。
Y：タケノコ以外に何かその辺に、これは今までの 35 年間の間にこれは良いぞというようなものは何かありますか？
Kさん：いやー、もうそれくらい・・・。そういうのはあんまりあれですけどやっぱり一番はタケノコですかね。
Y：なるほど。
Kさん：まあそれ以外だったらね、ここやったらまあ買ってこなあかんですけど、イカナゴとかですね。そういうようなのは、ここ今忙しいですけどね。イカナゴも。
Y：うーん。
Kさん：まあ神戸からきますよね。明石からね。
Y：はいはい。
Kさん：で、それでまあ、その時期になってきたら
Y：毎年どっさりくぎ煮をつくられるんですか？
Kさん：はい、私はそんなに言うほど・・・。5、6 キロですけど。お友達は十何キロって。14、5 キロくらいいくんじゃないですかね。
Y：へー。
Kさん：だから、その人はまあよそから来はった人で、たしか山形とかでね、実家は山形なんですよ。そうするとここへ来るといろんなものがあって良いとか言ってね、初めはもう大阪ってなってきたらちょっとあれやったらしいですけど、でもやっぱりここにくると、タケノコがありイカナゴがあって梅干しがあって、あとラッキョですかね。向こうで買えないような種類の物が買えて良いとかって言われてましたけどね。
Y：東北の方が関西にいらっしゃるのは珍しいですもんね。
Kさん：転勤でね。はい。だからまあその方はいろんなとこ見てきたから分かるんですけど、私はもうよそに動いてないんでね。
Y：うーん、ふふふ。
Kさん：全然分からないですけど
H：やっぱり、出て行く人がここは他にはない良いとこだったとおっしゃることの、やっぱり大きな理由は、あの建て詰まってなくて、緑がいっぱいやからでしょうね。いろんな理由があるんやろうけども。一番珍しいここの良い所ゆうたら。環境ですかね。
Kさん：あのー、まあ環境もですしやっぱりその、どういうんですかね、自分とこの土地ではないけれども、そういうように触っていてもですね、お花にしても、芝生を自分なりに一生懸命して、で綺麗にしてもよその人がそれに対して目くじらを立てることもなく、まあ見といてくれはるというところですかね。嫌がらせもなく。まあそういうところでしょうかね。
H：あー。
Y：それはしかし団地の良さっていうことではあるんでしょうね。
Kさん：はい。
Y：団地だからこそそうなるというか。
Kさん：そうですね。でまあ私がしてるところは三角形のところぐらいなんですけどそこも公団が、日本？なんですかね？竹とかいろんなものでしたんですよね、囲いをやって、色んなのを植えたんですよ。でもそこまでは良かったんですけど、そのあとは管理しはらへんもんで、その時だけであとは全部枯れてしまったんですよね。まあ、あの角をねあそこでやってるでしょ？
A：やってますね。
Kさん：であそこのところで草がボーボーと生えているよりは、お花をした方がいいんじゃないかなと思ってしているんですけど。そやからいうて高いお花をするとみんなの邪魔になるから、目障りなんで。ほんで低いお花をするように心がけているんです。そやなかったらなんかこうあんまりね、思ってても高くなるのがたまにあるんですけど。でもまあ低い方を選んでね。
Y：かさばってくるからですね。
Kさん：はい。まあそういうのをここで見て綺麗なと思うくらいでいいかなとかって。するからにはまあ、自分の土地でもないのに厚かましいと言われるんですけど。
H：まあ賃貸だから、分譲だったらここは誰のものや、みたいになるからね。できませんのでね。
Kさん：て言われるんですけどね。でお花のお水も初め持って上がって持って降りてたんですよ。で、そんなんより下でしたらいいんじゃないの言いはったんでね。で公団に聞いたんですよ。お花のお水するんですけどどうとか言って？そしたら、水道料金ありますよね。それがいくらまでって決まっているらしいですけど、それ以上超えていないから自分の口からいいですよとは言われへんけど、いいですって言ってくれはって。
Y：そういうことですよね。
Kさん：それで大きい顔してお水やりしているんですけど。
Y：いやもう三十年来いらっしゃったらね、誰の土地とかということよりもそこに住んでいる自分の場所やという気持ちで花も植えて、段をして、その周り綺麗にして、なんでもないことのように思いません？やっぱりなんか遠慮しいしいやっておられます？
Kさん：やっぱりね、あのするのでも自分が古いからそこで先にしているっていうのじゃなくてですね、草ボーボーよりいいだろうと。その代わり、まああんまり値段の高いお花をしないで、どこにでもあるようなお花ですね、それにして、高さも考えて植木鉢とかそれ以外のもろもろですね、そういうのも置かない。そういうのをおいたら自分とこのもんになってしまいすよね。だからもうそういうのはしないで、お花だけを置いておくというのは自分の中でですね、思っている。
Y：結構気を使ってやっていらっしゃる。
Kさん：まあ一応ですね。上等なお花ってやっぱり色々ありますよね。
Y：持っていかれるか分からない。（笑）
Kさん：それもあるんですけどね、なんかはい。綺麗と思ったらたまに切っていかれますけどね。
H：それはお花をやる場所は、南側は日がよく当たりますけど、階段からは出にくいですよね。どのへんの場所でやってはるんですか？
A：これで見にくいですけど、ほんまにこれの目の前。
H：やっぱり南側？
Kさん：北側。

Y：ベランダの前？
H：端っこだから脇？
Y：間？
A：こういう入り方するんですけどここですね。
H：今こっちが階段ですよね。ああなるほど、いい場所。
Kさん：でも夏はお日様は当たりにくい。
A：いつも僕ここ通るんですけど、いつも綺麗なって思って。
A：ここ以外も自治会のかたがＥラウンジの前を、花壇あるんですけど全部やってて、花植えて。今もうめっちゃ綺麗になってます。
Y：世話してはるから。
A：みんな熱心にね。Ｕさんもここ丸いとこ綺麗に。やから上から見てもホンマにちゃんと綺麗に見えます。良い感じです。
Y：見て綺麗綺麗言ってんと手伝いに行かなあかん。
A：そうですね。（笑）水やりを。
H：東大阪にお住まいの時はどんな家とか、どんな環境でお住いになったんですか？育った環境とか。
Kさん：家はあの一軒家なんですけどね。私怖がりですからね。自分の家に入るのも一人の時はこう戸押し上げて、入ってから全部電気つけてですね、見渡して、どないもないとなったら戸を閉めてというような、こうする感じだったんですよ。
H：大人なってからです？
Kさん：大人なってからずっとですね。御殿山の時は開けたらもう全部見えますからね、母がね、あんたに丁度いいわって言ったんですよ。みんな見渡せるて言われたんですけど、でもあまりの畳に小ささにびっくりしてましたですけどね。
Y：俊徳道っていったら家が建て込んだところですよね。
Kさん：そうですね。はい
Y：駅の近所っていったらだいぶ建て込んでます。
Kさん：そうですね前、私が小さい時は田んぼも有りましたですけどね。
Y：あ、まだ田んぼ有りましたですかね。
Kさん：今ないんですけど布施警察のとこをいったとこなんですけど。日進高校て昔ようありましたですけど、あの端なんですけどね。だからその、便利でね。だったんですけどね。
Y：そら便利です。
Kさん：暗くもなく通りをこう入るだけですからね。便利で。
H：花とか植木とかちょっと触ろうかというのは、東大阪とか御殿山とかそれぞれやっぱり子供の頃とかあったんですか？
Kさん：実家にいてるころはね、全然。まあ動物は飼ったりしましたですけど、そういうのは私はしたことがなかったですね。でもここに来て。上がちょっとするんですけど、下はその出来た時に、公団が作りましたけどダメになりましたよね。その三角のところが草が生えてきて、せっかくここ草ボーボーなのもあれやからお花にしようかって言って、ほんでお花をしたっていうのがあるんですよ。
A：それは何年前からやっているんですか？
Kさん：あれって大分なるんじゃないかな。そういっても２０年ぐらいなるんちゃうかな。それぐらいなんですかね。でもあんまりあれすぎるとですね、他の棟のとこから、いろんな人が住んではりますでしょ、ほんだら上からご飯が落ちてたりね、なんか物が飛んできたり。そういうのも結構あるんですよ。
Y：そうですか。へえ。
Kさん：だからみんながどうとかってなくて、階段に住んでいる人のそれなんですよね。まあそういうとこですかね。もう、ほんとやったらこう、斜めに自分の階段に入っていけるのに、それをきっちりこう全部やってしまったら遠回りや無いんですけど、そういう感じにやってしまって、柵ではないですけどやってまいますでしょ、そしたら邪魔ですよね。ほんまやったらここポンとこう渡ったらいけるのに。
H：斜めに入れてたのにまっすぐにキュンと公団が作ったんですよ。
Kさん：いえいえ。お花してはる人が。
H：ああ、お花してはる人がですか。歩きにくくなるんか。
Kさん：だから全部ね、やりすぎてしまうと。やっぱりね。
Y：まあ見て綺麗な、ですまへんところがだんだん出てくるわけですな。まあ歩くには便利に歩きたいとか、なんかちょっとやっかみ半分でなんかやってみたりってなこととかいろいろあるんでしょうね。そのへん面白いですね。
Kさん：だから私はするにあたってＡ棟も全部見て歩いたんですよ。どんな感じにみんなしてはるかって一応見てたんです。でもこういうのはちょっとまずいなとか、こういうのはまずいなとかね、いろんなことですね、思って。まあＣ棟でもやってはるんですけど、やってる人はいいけど他の人見たらちょっとしたいやろうなっていうね、のもあるんですよ。きちっとやってはってね。
Y：ものすごい手の入っているところもありますね。手のこんだことをやっておられる。
Kさん：私のやってるのは適当ですからね、いい加減にやってる感じですけど。
A：いい意味の適当ですね。
Kさん：なんでも適当。（笑）
A：適度で
H：あの、家の中は狭い広いとか、こう使い勝手とかどうでしたか？
Kさん：そうですね。来た当時は狭かったですからね。こっちは広いと感じましたですけど。今はものがたくさんあるからちょっと狭く感じますけど、まあ二人で住んでいくんやったらまあ、あれでもいいんやないかなと思いますけど。
Y：お子さん二人いらしたころはどうでした。やっぱりちょっと狭い感じでしたか？君ところと同じ間取りやろ？
A：そうです。全く同じです。棟が一緒なんで
Y：こっち部屋あって、こっちにもう一つあって。
Kさん：ま一人は四畳半で北側ですね。で一人は３畳なんですけど。
Y：こっちの方ね。
Kさん：あるんですけどね。
Y：それでご夫婦は広い部屋っていうか

Ｋさん：６畳でね。してるんですけど
Y：ご飯なんか食べる時はどこで食べてらっしゃいます？
Ｋさん：もう台所と６畳は一緒ですからね。もうそこを真ん中に丁度置いて。
Y：ふすま開けて使うようなそんなかっこかな。ふすまは夜おやすみになる時はふすまを閉めてお休みになる？
Ｋさん：あそこはいけいけではないので、一応６畳と４畳半が。部屋別れてますね。６畳と台所だけが一緒なんですけど。まあそこでするんですけど。そうでないところもありますよね。でも私のところの場合は主人ようお友達を連れてきましたんでね、それで便利だったです。４畳半で寝てて、こっちで食べて飲んでようなことをたまにやりますでしょ。そやからそういうふうにおいて、一つづつ区切られてるのは良かったなと思います。
H：飲んでというたらご主人のお友達？
Ｋさん：そうです。もうね。なんかいきたい言いはるからいつもでも１２時ごろにかかってくるんですよ。
A：夜中の？（笑）
Ｋさん：そうです。（笑）ほんでタクシーでって。今、淀屋橋とかでなんとかいうんです。
H：大阪からここにぼんって来る？
Ｋさん：そうすると何分ぐらいと思ったり。一番あれな時ここで電話したりするんですよ、今下にいる。戦争です。
A：ははは
Y：それは賑やかですね
Ｋさん：そうですね。だからもう逆にいつものんびりやってますよね。それが急にお客さんになってきたら、もうそこで３０分ぐらいなんで私がバーっとやると、娘がようそれでいつもあれしてるのに、しようと思ったら出来るんや言われます。（笑）
Y：それは面白い。ふっふっふ。
Ｋさん：来はる時はお布団をバーっと引いてですね。なんしか３０分ぐらいの間にしますからもう大変ですね。
Y：それで、それからまた長いんでしょ結構。そうじゃないんですか？
Ｋさん：そうです。朝はまたご飯を食べて行きはるでしょ。
Y：そうか。
Ｋさん：だから、ようまあ狭い所でガチャガチャ音はしますしね。せめてきはった時は、何も出ないんですけど。気持よく帰ってもらうっていうのが私のモットーなんでね。しないですけど今度来はった時はごちそうしますからって言って帰ってもらうんですけど。しないです。友達来たらいつでも泊まっていく人ばっかりなんです。
Y：それはその時間からやったら泊まらんことには帰れませんもんね。
Ｋさん：靴下と歯ブラシっていうのを置いて帰りはるんで、靴下を脱いで帰りはるんでうちのところの靴下を履いて帰ってもらうでしょ、名前書いて貼っとくんですよ。歯ブラシも１２，３人あるんですよ。こう書いて私がいてない時はそっから主人が出してするって。（笑）
Y：たのしいですねある意味。奥さん大変だけど。（笑）
A：それはすごいですね。（笑）
Ｋさん：そういう感じでしたね。
A：そういうのを夜やってても、あまり周りとかは気にしなかったですか？その下とかは？ちょっと声小さめとかで。そんなん関係なく？
Ｋさんさん：まあ夜中だから寝てはるでね。でどんどん、お酒飲んできてもどんどんしないやんね
A：あーずっと座ってる。
Ｋさん：まあ話ししたり、食べたりしてるんでね
A：じゃあ大丈夫ですね。
Y：いや、すごいですね。その１０何人ものその、歯ブラシがあるっていうのもそれはなかなかすごいことです。
Ｋさん：いやだからわからないですから、全部ケージに名前書いて箱に入れとくんです。そうすると私が実家に帰ってたりすると、その中から靴下とか歯ブラシとか出して。私が帰ったらですね、靴下とかありますわねもちろん。
H：そしたら来客用の布団もあるんですかね。
Ｋさん：そうそうそう。そりゃもう、結婚するときに持ってきてますんでね。それを主人が敷いて。
Y：うん、うん。
H：そのときはじゃあ奥さんは娘さんの部屋で寝るんですか。
Ｋさん：それは、お友達がおうちにいるときですか。
H：ああ、まあ。
Ｋさん：そうですそうです。子供と私と三人でね寝るんですけどね。…まあ、色んな人もいらっしゃいましたけどね。
Y：ふうん。
Ｋさん：一番、いっちばん偉いさんが来はった時は断りましたけどね。
A：ははは。
Ｋさん：ふふふ。電話で。そのときは断りましたよ。
H：そうか。上の人か、部下か、いろいろですか、そしたら。
Ｋさん：そうですね。やからもう、店長が来たときは断りました。
H：へえ。
Y：ふふふ。
Ｋさん：ねえ。だからもう、電話がかかってきたときは、まあ 2，3 分くらいのうちで返事をしないと、向こうが察しはるからね。
H：ああ、
Ｋさん：だからまあ 2，3 分くらいのうちで、もう、あかんとは言わないんですけどね。えーっ、とかいう感じですよね。
Y：うん、うん。
Ｋさん：でまあ返事やったらいいよーっていう、2，3 分あったら十分ですよね。それぐらいで済むんで。それも 5 分したら、やっぱりあかんねんて思わはるわけよね。
H：ははは。
Ｋさん：そうするとやっぱそれで来てもらうのは気い遣いはるでしょ。
A：ふっ、あはは。

Kさん：だからそういう感じです。あはは、そやから娘も結婚してるんですけどね。まあ、一応そう言うてあるんです。
Y：ご主人が、だからそうゆう、みなさんを呼んでね、家でそういう時間を過ごすのがお好きやということもありますけどね。
Kさん：はい。
Y：距離的にもその、どっか、本町か淀屋橋か、あのへんやったらわりと、ぴゅっと来やすい頃合いの距離感なんかな？この樟葉いうとこは。
Kさん：そう…ですね。そのときはいつもタクシーなんですよ。
Y：タクシーかあ。うんいや、だからわりと簡単に来るでしょ。
Kさん：あ、そう、まあまあそうですね。
H：でも 5 千、一万円は…
Kさん：そうね、それくらいは…。はい。…でも、そっから乗ってくと、タクシーの運転手さんも、またそのときにお友達が乗ってきたときに京都まで行くときあるでしょ。
Y：はいはい。
Kさん：そのとき行くのがね、あの、まあ帰りしなはひとりで寂しいて言うんですかね、タクシーの運転手さんが。そうしたとき主人がそのそこまで乗っていくんです。
A：ふふふ。
Y：へえええ。
Kさん：でひとりで乗って行って、送って行ってここまで帰ってくるんです。
H：ああなるほど。すごいいい人なんですね。
Kさん：運転手さんがね、帰りしなはそんなとこからね、大阪向いて帰るのもれやから、大変…ていうか寂しいしいう感じで言いはるんです。
H：料金は一緒で。
Kさん：はい。ほんでまあ、その人送って、帰りしなここまで来て、自分降りて、ほんでタクシー乗って。だから帰ってくるんすごい長いんです。
Y：はー。
Kさん：ふふふ。
Y：親切…。今はまだ、お仕事なさってるんですか？
Kさん：今はね定年はなったんですよ。63、2 歳ですかね。
Y：うん。
Kさん：それぐらいに定年なったんですね。で一年間家にいてて、今は銀行の方のね、あれで行って、70 歳までいけるんですかね。ま今は 67 になりましたかね。
Y：あ、そうですか。
Kさん：あと 3 年ぐらいですか。
Y：最近はお仲間を連れて、ゆうことは無くなって…だいぶ減ってきたんですか。
Kさん：ああ、このごろはね、そう言うのは、みんな年いってきましたからね。でも今までの OB 会ですかね。
Y：OB 会。
Kさん：はい。そういうんではお電話があったりですね。でまあ一年にいっぺんぐらいありますね。
Y：ああ、そうですか。
Kさん：そのときはもう、東京とか岡山とかですね、そういうとこから来はって。
Y：みな寄って。
Kさん：はい。ま、そうですね。
Y：ここへ。
Kさん：あ、それは…
Y：必ずしもここではなくて。
Kさん：今年は、大阪であるんですよ。その前…去年は岡山でしたね。
Y：ふうん。
Kさん：それはお得意先の偉いさんですけど、そのなかでのいろんなつきあいですかね。そんなんでまあ行きはるみたいですね。最初の人の分ていうのはたまにね、あるぐらいですけどね…。
Y：結構、男山を拠点にして、いろんな事をいっぱいなさってるわけですな。
A：ふふ。
Kさん：ああ。…でも私たちには、働くんが趣味じゃないんですけど
Y：はあ
Kさん：自分の趣味どうっていうよりも会社行ってて忙しくて忙しくてですね、自分の趣味がどうとかっていうそんな暇が無かったです。
Y：ふーん。
Kさん：あっても、まあゴルフぐらいですかね。それ以外はお酒飲むのんと、ゴルフたまに行くのと、まそれぐらいですかね。はい。あと仕事ばっかりでしたしね。
Y：ふうん。…男は苦労してますなあ。ふふふ。
Kさん：そうですねえ。でも、土日祭付きのお仕事でしたからね。だから、家族でお買い物に行くとかってのは無かったですね。
A：ふーん。
Kさん：もうみんなが夏休みとか、ボーナスもらったときとかってのは家族で行きますよね。そういうのはうちの家ではなかったです。
Y：ふうん。
Kさん：忙しくって。そういうときこそっていうんがあったもんでね。仕事が。
Y：うん。
Kさん：まあ、ねえ。帰って来んの遅いですしね。だから子供はね、だんだん大きくなってきてしもたらあれですけど、まあ真ん中ぐらいのときやったら 8 時 9 時くらいには帰ってきますよね。40 過ぎたらそういうときありましたでしょ。そしたら、会社がお友達いてへんのかって言うたくらいですし。
Y：ああ、ふふふ。
Kさん：あはは。早く帰ってって。
Y：今日はおかしい、て。
Kさん：そんな感じでね。
Y：うん、なるね。
Kさん：まあまあここはほんといいとこですよ。
Y：あの、ま、そういういろんな生活なさるについてね、こういう団地のような家…戸建てに比べて、この集合の家っていうのは、どういうんですかね、住みやすいですかね。…単に広さがどうとかいうだけの問題ですか。
一戸建てのうちに比べてね。あ、そうか一戸建ての家

であんまり同じ事はなさってないから比べられへんかなあ。
Kさん：はい…
Y：あの、全然、便利にやってこられたわけですか。
Kさん：あ、そうですねえ。んでまあ傷んだりするとですね、そのころになるとわりにこう…してくれはるでしょ。
H：うーん、そっか。
Kさん：で、それで自分とこが何でもかんでも、してくれはれへのあるんですけど、自分でもっとなんとかでって思った分は、…あの、まあ、公団の事務に、まあゆうたら斡旋してくれはりますよね。
Y：はい。
Kさん：自分でどこ探すんや無くて。
Y：はいはいはいはい。
Kさん：そうすると、まあすぐ来ていただけるし、でまあ安心ですかねえ。
Y：うん。
Kさん：そういうのは利用させてもらって。まあ来てるのでね。
Y：うん。
Kさん：あの…、他の業者を頼まれる方があるんですけど、私はまあここに住んでるんやから、住宅…なんとかいう会社ありますよね。そこにお電話して、ね。
Y：うん。
Kさん：でまあ…水道でもトイレでもでね、そういうのは言って、来て、んで斡旋してもらって。そうすると…安心…ですよね。私はそういうふうに使わせてもらってます。
Y：まあ便利に、使ってらっしゃる。
Kさん：はい、はい。直してもらって、自分では自費だろうと思ってても、向こうが来はって、あ、これは交渉しますとかって言うてくれはって、してくれはる場合もあるんですよ。
Y：はいはい。
Kさん：んーだからそういうふうにして、安心してですね、今まで
Y：そうですね。細かいことにあんまり気い遣わんでも安心…きっちりしてるから安心してるていうねと、そういうとこはありますかね。
Kさん：はい。だからこれは換気扇とかでも、これは大掃除しなくて良いですよとか言っていうんですよ、私がわーってしてたらね、ここまでしなくていいですよって言いはるんですよ。
Y：うん。
Kさん：あの、羽根を外してですね、それはそんなんしなくても壊れたら換えてもらいますからって。
Y：ふっふっふっ。
Kさん：ふふふ。
H：その人の仕事になりますからね。
Kさん：そうそう。そない言わはるんですよ。ふふふふ。
H：これで何歳ぐらいまで暮らせそうですか。この後の10年20年、30年…2階だからまだ、ね、階段楽ですよね。
Kさん：あ、そうですね。私はまあ誰言われてもここでいいって思ってるんですよ、このごろまあ、時々、もうここが無くなるとか、ね、どうとか言われるんですよ。
Y：うん。
Kさん：あの、売るとかですね。えーそうなん、とか言うんですけど、まあそのときはどっかいてくれはったらいいんちゃうかなって思ってるんですけど。でも…まあ例えばB棟とかですね。こっちのとかね。そうするとこっちの、棟間隔のわりに狭いんですよ。
Y：はー。
Kさん：棟と棟の間が。
Y：はいはい。
H：あー。
Kさん：C棟はね、広いんですね。
H：確かにね。ああ、こっちのが狭いね。
A：はい。狭いですね。
Kさん：で畳も。私とこなんかは団地サイズじゃなくって、江戸間なんですね。
Y：そうですか。へええ。
Kさん：はい。
A：へええ。
Kさん：でまあ友達のB棟に行くと団地サイズなんですよ。
Y：うん、狭い。
Kさん：はい。だから、私とこはまあ6畳江戸間だからぜんぶきちっと引けますけど、お友達は江戸間をこう、これくらい折らなあかんのですよ。
Y：ほおお。
Kさん：はい。
Y：ああ、そうですか。
Kさん：だからあの、C棟は、その3畳の間も、物入れが大きいの付いてるんですけど、あれをたためば4畳半くらいにはなるって聞いたんですけど。
Y：あー物入れ、あれたためますねえ。そういえば。
Kさん：はい。そうすると、4畳半くらいに。そのようにされてた方もあります。
Y：ああ。
H：この、棟と棟の間がちょっと距離が違うって言うのは、非常に重要なことですか。
Kさん：あ、はい。そうですねえ。
H：だいぶ違いますか。
Kさん：そうですね。で私とこ一番端ですからね、この目の前に、向かいのおうちが無いんですよね。
H：はい。
Y：前何もないでしょ？
A：それはね、いいですよね。
Kさん：はい、はい。
A：あの、305がDIYしてるじゃないですか。
Kさん：うんうんうん。
A：あそこのお風呂、透明にしてるじゃないですか。風呂の、外の扉。そっからぱって見たら、やっぱり前に何にも無いから、緑がめっちゃ見えるんですよ。
A：あれはずれてるわけ。
A：はい。ずれてます。前の建物が…これがちっちゃいんで、これが階段室2個型なんで、ここが全部緑で空いてるんですよ。
Y：うん、うん。
A：それはやっぱり、僕の部屋より全然いい…
Y：それはあなたの部屋が、一番こっちの端やからやろ？

A：あ、違います。その DIY の部屋がです。
Y：あ、DIY のやつか。で、あの、今お住まいになってるのは…
A：一番端っこです。
Y：やっぱ端っこですか。
Kさん：はい。端っこの 2 階なんです。だからあの、A さんとこは 4 階ですよね。ほんでんまあ、東が、南側ですよね。
A：はい。
Kさん：景色が全然違いますよね。
A：ふふ。
Kさん：私とこから見たらそういうんは全然見えないんですけどね。もう 3 階 4 階っていうと、もう全然ね。
A：景色が、違いますよね。
K さん：うん、こう、宇治の駐屯地というんがね。
A：はい、見えます。
Kさん：夜なんかきれいよね、
A：高架とか見えます。
Y：あー、そうですか。
H：ふうん。
A：でも端っこはやっぱり北側、
Y：北のとこね。
A：北の住棟が抜けてるとこで、めっちゃ良い感じでしたね。
Y：うんうん。それは南側なんも無いねんからね。それは向こうだけの話で、そっちだけがあるかないかの違いは大きいな。うん。
A：そう、そうですね。大きいですね。
Y：でもそこのところが、さっきの住棟が、ちょっと広いのと、狭いので、だいぶ変わってくるっていうかね、話になってくるかな。
A：うん、うん。
Y：だからすごく、偶然、すごく良い場所に住み着かれて。
Kさん：あ、そうですね。
Y：それですっかり気に入ってしまわれた。ふふふ。
A：ふふふ。
Kさん：そう。もう一回で、みんなは何回で、あのころは 20 回で無抽選に入れるんですかね。でも、私一回しか。一回で、あの、補欠で入ったんですけど。
Y：あー。
Kさん：それがなかったら、多分、やっぱり家を買ってたと思うんですけど。はい。
A：確かに。
Y：それはラッキーやったですね。
Kさん：でも子供達はそれと大きくなりましたからね。やっぱり自分らは嫌なんですよね。これで、ここで大きくなりましたでしょ。だから自分らはやっぱり一軒家とかに。ふふ、マンションとか
Y：あ、そう思っていらっしゃる。
Kさん：そう、ですねえ。
Y：へー。
Kさん：だからここで住んでたら子供さんて、たいがい家をみんな買ってはると思います。
Y：それ、何が嫌なんでしょうねえ。その、子供さんにしてみたら。
Kさん：どう、なんですかねえ。なんかもう、…飽きたんじゃないですかね。ふふふ。
H：うん。
Kさん：でまあ私のは、下の子…上はまだいてるんですけど、下は香里園で、あそこは一階が車庫になってて、2 階 3 階がっていう、ちょっと山をあれしたとこですからね、そういうので階段上ってって家入るんですけど、でもやっぱそれはそれなりでね、また、後ろのお家の人とかのいろいろあって、こっちは若いし、後ろは年いってはるし。
Y：うん。ふふ。
Kさん：いうたらやっぱりね、それがまた気になってね。あのーこんなん言わはったんやけどとか言って。んーまあまあ挨拶だけ行って、しとけばいいやんとか言うんですよ。
Y：ええ、ええ。
Kさん：ほんだら子供までがねえ、親が緊張してはるのは失礼でしょ。
Y：うん、うん。
Kさん：そしたら子供 2 歳になってるんですけど、にこりともしないんですよ。ふふふふ。
A：あははは。
Y：へえー。うん。
Kさん：なんぼあやしてくれはっても。こないだ私、行って見たらね、私の顔こっち見たんですけど、それまでね、全然にこりともしない。
Y：うん、うん。
Kさん：なんでやろと思ったら、それはあんたが緊張して喋るからね、子供に伝わってんちがうのって言うんですよ。
Y：ええ。
A：ははは。
Kさん：それは、ん、これどうしたらいいのって。ふふふ。敏感に、察するんですかねえ。
Y：うんうん。なるほどね。
Kさん：はい。
Y：まあ戸建ては戸建てなりに、やっぱりいろいろ悩みがあるわけですな。
A：うーん。
Kさん：はい。そうですね。やっぱり、ガスとか何とかて音がしたりすると、
Y：ええ、
Kさん：みんなそれぞれお家を知ってる方は、なんかあっても困りますよね。
Y：ええ、そらそうですよね。
Kさん：そうすると、どこの家やろってなってくるんですよね。
Y：ああ、なるほど。
Kさん：もう即見てもらわなあかんとかね。どないもなくってもね。
Y：うんうん。
Kさん：だからそういうんで、気い遣うみたいですよ。だからまあ、今わかってるんやないですかね。上はね、やっぱりこう、マンションがいいとか言うんですけどね。
Y：マンションがいいと？
Kさん：マンションがいいっていうんですよ。そう言いも

ってまだいてるんですけどね。
Y：じゃああの、だけど男山で、あの一大きくなられてね、いわゆるふるさと意識っていうんかな、あの一そこが自分の実家なんだっていうような、そんな気持ちって言うのは、あの一どういうんですか、いっぱいおありではないんですか？
Kさん：どうでしょうねえ。
Y：あんまりそんなことは話されたことはありませんか。
Kさん：まあ上の子はずーっとおうち、家いてますよね。でもここが、私さっき言いましたようにあの、奥の方であったりね、してたら、長いこと家にはいてなかったと思うって。
Y：はいはいはい
Kさん：それもう今やったらこう帰るときでも、明るいですしね、暗いとこ通りませんでしょ。そんなんだから、そういうもんとか便利さとか、まあ物買うとかっていうのはまあここらでは買いませんけどね、あの、会社行ってますしね、で、途中で買いますから。でもまあそういう分において、遅くなっても怖くなく帰ってこれるって言うんですかね、でまあ、あの、小鳥の音もいろ、声も色々聞けるし、紅葉もどうやしって言うのはありますね。はい。
Y：でもこれだけたくさんあってね、そんなに具合ええとこいうたらそんなにたくさんありませんよね。たまたまそこにいらしゃった…他の人、どない思ってんのやろ。
Kさん：だからよそ行って、おうちのほう寄せてもらって、広いうちやなーいいなーて言うて、言うんですよ。まあお友達いって。でも帰って来ますでしょ、でもやっぱりここがいいって言う風になるんですよ。
Y：いや、それ、よそ見て、より一層自分のここはいいという感じを持たれるていうことはあるんでしょうね。
Kさん：でもやっぱりここいいよなっていう話に落ち着くんですよ。まあ広いお家とかね、そういうのはまあまあいいんですけど、いろんな周りのいろいろ見たときに、便利やし、でまあまあここがいい、まあ住めば都かなとか言う話になるんですけど。
Y：いやーそうですね。
H：内装はあの一最初お住まいになってから、35年なんなり、なんかさわ、変わったりしてんですか。キッチンとか、壁紙とか。
Kさん：あ、壁紙はねえ、あのーえーっと、荷物があったりするので三畳と…四畳半は変えてないんですけど、六畳はあのしてもらったんです。でキッチンは、ま今最新の色々ありますよね、あの、えー、台所変わりましたよね。あれは全部してもらってるんです。
Y：それ取り換えてくれたわけ。
Kさん：えーっと
Y：キッチンは
Kさん：はい。それとか申し込んでですね。今はもう無いらしいんですけどね。はいあの時。
H：なんかありましたね、えっと、ライブアップ…
Y：あそう、うーん…
Kさん：であれもう何台かまあ決まってたらしくってですね、それにもう到達したから今はもうして欲しいなーて思ってはる人もいるんですけど、それはもう今もう無いんですよ。
Y：終わりました？
Kさん：はい。もうだいぶ前に終わってですね。はい。で…、だから私とこは台所はもう洗面所も、全部まあ、変えてるので、それの分は何もないんですよね。
H：お湯はあれですかその、流しのお湯は流しの付いてる湯沸かし器、だけども、一階のやつですかあの、湯沸かし器の場所は。
Kさん：あ、あの台所ですか。
H：はい。
Kさん：台所はもう蛇口から…
H：もう出てきます
Kさん：はい。んでここの上で、あの、押して、
H：あ、この上でね。あ、ここに入っとるやつ。
A：換気扇のボタンの横に、給湯の何かある。
H：あ、ああ換気扇の中に給湯機が入ってるんですか。
Y：あそう、ほおー。
H：上っ側ね。
A：そうそうそう。
Kさん：それで、まあお湯が出てくるんです。んでまあお風呂はあの、お風呂つけて、で洗面所で出てくるんですけどね。はい。だからまあ住んでる上において私の中ではですね、まあ色々思ったらきりないですしいね、まあ…思うんですよ。
Y：ここだけ不便やなっていうなとこありますか、そのいま住まっている家の中で。あんまりそんなこと気になさってない？
Kさん：そういうこと、それこそもうちょっとそれこそ広かったらなあとかね、もう一部屋なあって思うんですけど。まあもうそれもあれなん違うのって思ってるんですよ。だから、それほどねえ。
H：あれ洗濯機って、大体あのえっとどんなえっとあの、お風呂の向かいの、洗面の横ってことですか。
Y：洗面の横やなあ。
H：でも、ですよね。そうそうそうそうそう。
Kさん：でもあの、前はね、あの…、ホース、あの洗濯のあれを、蛇口あれしてですね、そんでやってたんですよ。そうするとこの、排水の分もお風呂場にやらなあかんかったんですねえ。でそれが外れたりすると、そして水漏れして、でそれがねえちょっとのお水でも、下のうちどんだけ落ちたかいうぐらいもう落ちていくんですよ。それが四畳半に落ちるんですよ。
Y：流れてきて、こっちにね。
Kさん：四畳半にね。私もまあ、何回かやったことあるんですけど、で今はあの、排水管に直接ホース入れるようになってるんで、それは無くなったんですけど。ま自分とこで、あの、水槽とか、そういうのあれしてはって割ったら別ですけど、
Y：それはまあね。
Kさん：はい。もうそれはやったら、上のうちが来た時もどんなに臭かったですか。
Y：魚の水？
Kさん：はい、もう…
H：ああ…。
Kさん：それはねえもう、ドアのとこまでもうすーごくてね臭い臭い、でしたけど。それ以外は四畳半の所にね

落ちてくるんですよ、ちょうど板の間の所のきりきりで。
Y：ちょうどパネルのジョイントがちょうど詰めてあるんかな、そっからやったら。
H：なんでしょうね、ＰＣなのかな。
Y：ＰＣやね。
H：ＰＣ，ああ。ほんならジョイントとか流れてくるけどね。釣り上げる穴、穴とか。
Y：うーん。
Ｋさん：だから前にこう、それを知らないもんで和ダンスを置いてたんですよね。ほんでちょうど際に流れてくるんです。そこだけ拭いてたんですよ。ほで何年も経ったときに引き出し開けて帯を見たら、なんでこのシミはいっぱいいてるんやろうと思ったらそっからお水が入ってて、知らないもんやから、ほでさらの帯やけど何本かがシミだらけんなってるねん。
H：はあー。
Y：へえー。
Ｋさん：はい、それで場所変えたんですけど、六畳にですね。だからあれねえ、もうあの、玄関、あの板の間のとこすぐ水が落ちるんですよ。下に。
Y：下にね。
Ｋさん：はい。
H ふーん。
Ｋさん：であの今私のとこあそこフローリングにしたんですけど、でフローリングにして、このなんか、ええ…何かね、こう、接着剤ですかね、あれでずーっとつけてもらってあるんですね。そしたらちょっとこぼれても、下に落ちて行かない。
Y：ああ、ああ隙間はね、うんうん。
Ｋさん：で全部、こうぜーんぶ付けてくれはって、してもらって、それなかったらね、ちょっとこぼしたもんでも、人のおうちに落ちていくんでね。もうヒヤヒヤです。あれなんですけど。
Y:まあ重なって住んでるとね、その問題がありますよね。
Ｋさん：だからあれがもうちょっと水が落ちて行かないって言うんですかねえ、あったらいいのになあ。
Y：うーん。
H：うーん。
Y：ふーん。
Ｋさん：あれがねえ、はい。でそのために天井が、ボコボコになってく…
Y：はいはいそうですね。
Ｋさん：あの、で今度は直してくれはったらまた汚いんですよ。継ぎ当ての様に塗ってくれはるです。ふっふっふ。
Y：そうやね。
Ｋさん：だからまあ、そういう感じですかね。はい。ま今は六畳は膜天なりましたけどね。膜天ていうかね。
Y：はいはいはい、うんうん。
A：張ってますね。
Ｋさん：だから他のとこでもねえしてくれはったらいいのになあって六畳と台所だけですからね。
Y：台所もそうでしたかな。
Ｋさん：はい。台所そうですよね。あとは、無しですかね、四畳半と…。
Y：うんうんうん。
Ｋさん：あれをしてくれはったら、きれいのになあと思ってんですけど。
Y：なるほど。
Ｋさん：であれ落ちちゃってくるのは落ちてくるんですけど、ひっついてんのはね、なかなか落ちないんでして。あのこの貼ってある天井のあの白いあれがね。
Y：はいはいはい。
Ｋさん：そしたら、もうそのまま、ボコっと空いたとこだけ塗りはるんですよ。んなもうこんなんもう
Y：そこだけ塗りはるんすね。
Ｋさん：はい、でちぐ、色が合わへんからちぐはぐで汚くってね。もう全部ひっつけしてくれはったら綺麗なんですけどね。
H：六畳の間は和室のままですよね。
Ｋさん：はい。
H：そしたらあのー、お膳と、座布団で使うてはるんですか、机椅子ですか。
Ｋさん：テーブルにした。
H：テーブルにしてんなあ。テーブル、畳で。
Ｋさん：ちょうど中間ぐらい。
H：中間？
Ｋさん：ちょうど台所狭くなるんですけど、でもまあ、六畳の方にかかるのは椅子、が、
Y：あの、敷居をまたいだ形で
Ｋさん：あ、ええそうね、はい。で椅子が昼行った時は六畳の方行きますけど、まあ入れてる時も、まあそんなにあの、六畳の方には来ない、でいうようにはしてる。
Y：で畳の上には何か敷いてはるんですか？畳のまんまで？
Ｋさん：いえ、あの、絨毯です。
Y：絨毯。
H：絨毯。
Ｋさん：でまあ台所は、絨毯じゃなくって、えーっとあれ、ジョイントカーペット。あのこう、ちょっとスポンジの、こう 30 センチ四方の分で、ががっと剥がしていって、洗える分なんですけど、でそれをしてるんです。
Y：うーん。
Ｋさん：でそうすると…あの落としても、まあ卵も割れないいうぐらいですね。それぐらいあるんで、まあ下のおうちに大丈夫かなあと。
Y:ピアノなんかは、あの、弾いていらっしゃらなかった。
Ｋさん：あっ、小さい時はねえ、ずっとピアノ買ってね、してたんですよ。でももう弾かへんのでね。そうなったら場所が狭いのでね、もうそれねえ、あの、持って行ってもらいました。
Y：みんなたくさんピアノ持ってて、弾かないピアノをよー持ってましたね。そういえばね、うん。
Ｋさん：でもじーっといってもう、そうですねもう大きくなってからですね、んでみんなにもったいないって言われたんですけども邪魔でしょ、そうなったら狭いんでね、四畳半に置いてたんですがあのいつも、でもそんなん言うてられへんからと思ってね、でまあ持って行ってもらったんですけど。でもこの頃ピアノの音って聞こえてこないですね。あの頃うちの子が子供の頃よー聞こえてましたけどね、ピアノ。

Y：うーん、それは、弾く人が少なくなったのか、それとも弾かない、あんまりピアノ弾かなくなったのかどっちでしょうねえ、やっぱり子供たちが少なくなったからか。

Ｋさん：親が習いに行かせないんですかね。あのね、あのそれもなん、そうなんか色々まあ、景気不景気ありますからね、まそれもあるんやけど、あの私らの時は、どっちか言うたらええ、戦後して、習わんとどっちか言うたら習ってる人も有りますけどまああんま習わない。

Y：親が習ってない。

Ｋさん：それで子供に習わそうっていうのがあって、と思うんですよ。

Y：そうでしたね。

Ｋさん：で、その子供らは自分ら色々習わしてもらったら、自分のまあ別に、普通にあれしててですね、そんなにあれなこともないなて分かってるから、で今度子供には習わさん、ていう…

A：サイクルみたいになってるんですね。

Ｋさん：であのうち娘も今男の子が二歳なんですけど、あんたもあれでね、どうとかでいやーそんなん私今まで行かしてもらったけどね、そんなん行かしたら大変やから、ふっふっふ、何とかで何とか習わすけども、あるとこまで来たら、水泳とかでも、そんなにあれせんでもいいから、何年か習わして基礎だけ習わしてやめさせて、次はなんやらーはっはっは。

Y：うーん。

Ｋさん：言うてはいたですけど。だからもう自分が解かってるから習わさないっていう、一つもあるやと、思いますけどね。

Y：まあそうかもわかりませんね。

Ｋさん：でもこれはと思うのは、習わした方がいいんやないのとは言うてやるんですけどね。

Y：ものすごい才能があって、いうようなことがあるかもわかりませんもんねえ。

H：ふふ。

Ｋさん：でもあれを、とかしようと思ったらもう、あのバレー部のときもそうでしたけど、もう五つなかったら親にですね、五つなかったらあかん言う話やったんですよ。んっふっふ。だからもうとことん習うと今度もう親も大変ですしねえ、だからそこの区切りのとこがね、大変ですね。ま、次にこう変えていくとかね、思うんですけどね。

H：あの、ええと、お近くとかにその、かなりのね、高齢の方とか９０などで一人で住んでる人とか、なんかちょっと手伝ってあげないとちょっと、もうぎりぎり一人で暮らすのが大変そうな人って、たまにおられますかね。周りに。

Ｋさん：あ、あのごくごくはねえ、ま、８０幾つぐらいの、まあ一人でね、住んではった人がおったんですよ。その人はあの、やっぱり、急になく、元気やったんですけど急に亡くなって、んでまあそういうときあったですけど、でもまあ、それ１階にいたんですけどねえ。でもまあ。

H：まああとはまあ家族と一緒に暮らしてるとかまあ

Ｋさん：後の方はねえ、まあいてはる人は、たまにでも私ら知らないだけで、一人で亡くなってはるっていうのはなんべんか聞いたことはあるんですけど。今あの、私達でちょっと、あのおばあちゃんも９０幾つだったと思うんですけどね。あの、うん、息子さんと、お孫さんと一緒に住んではるっていう、５階でですね。でそれで、気になった時あったんですよ。でこのタンスに入ってるいう場合も今あるからね、

一同：はっはっはっは。

Ｋさん：大丈夫やろかいうてね。

A：はいはいはい。

Ｋさん：９０過ぎると悪くもなるやろしね、お医者さんに行くのもあれやし、５階からあれなん？

H：５階…。

Ｋさん：思ってたんですよ。でもう、通るたんびに、上見るんですよ。思った時から毎日心配になってきてですね。

ほんな電気がついてないんですよ。前も後ろもですね。いえー大丈夫なーん大丈夫なーんと思って、まさかなとか言う話やってたんですね。でまあそんなはずないんでしょうけどね。そしたら、言ってはって話した時に、ちょうどおばあちゃんはそういうところに入りはったらしいんですよね。んでだん、あの、息子さんも言うてももう 60 まわってはりますけどね、調子が悪くて、で入院してはったんです。でまあお孫さんまでですけど、でもおばあちゃんがどうしても嫌て言いはるからね、また、帰って来てはるらしいんですけど、て言う話ですけど、でも電気付いてないんですよね夜なってもね。んでま、大丈夫なん？て思ってるんですけどね、まあ大丈夫でしょうね。

Y：あのー…階段に今、９軒住んでますよね、どれぐらい顔は合わせられますか？毎日一回は顔合わすようなことまではいきませんやろ。

Ｋさん：まあ無いですね。はい。ふーん、向かいに住んではっても無いですね。

Y：向かいでも。

Ｋさん：はい。お洗濯干してはったりすると、ああ今干しはったんやなあっていう、ってバタンバタンって聞こえる音はしますね。でもまあないですね。あとは…、一週間に一回はまあ物持って行くんでねえ、あのあれですけど、あとあんまりないですね。で前ね、お掃除があったんですよね。

Y：はいはい。

Ｋさん：えー…2 か月にいっぺんですかね。その時にね、私の階段みな出てたんですよ。それが、公団の部屋のお掃除のおばさんがね、きれいにしてくれはるからね、あんまりしなくてもいいやろっていう話で、無くなったんですね、一時期。

Y：ふーん。

Ｋさん：でまた復活したんですけど、汚い時だけしようってなったら、年何回かになったんです。そしたらもうみんな意識が薄れてしまってですね、もうでなくなってしまったんです。でもまーそれは…それもあるけど、やっぱりそれはコミュニケーションね、とる意味でいいん違うのと思ってるんですけどね。でも、それからね、だからあのまま、汚くなくっても出てきて顔合わせてね、やってたらあれとやったん違うの、と思うん

ですけど。だから…
Y：今はそれは途絶えてるわけですね？
Ｋさん：今はほとんど、まあ、ねえ。
H：どこ掃除するんですか？
Ｋさん：あの、下ですね。
H：ああ、下のこの…
Ｋさん：はい。階段とかはね、まあ自分らであれっていうのがあるんですけど。まあ…道ですね。ですけど２棟はこのごろ剪定されるから少なくなったんですけど、２棟はどこよりも落ち葉がすごかったんです。
Y：はいはいはい。
Ｋさん：なんべんも木から落ちはる…。だからそれが大変やったんですけど。このごろもうぱっぱと切りはれるんで、まあ前ほどなくなったんですけどね。
H：ふふふ。
Ｋさん：だからそういう分においてあんまりお掃除のときでもね、顔合わせるっていうのはおんなじような人が、まあ３人くらいですかね、３、４人…あったうちの
H：定期的に掃除をする日を決めておくなんていうのは、まあ顔合わすいい機会ではあったわけですね。
Ｋさん：うん、あっそうですね。まあ新しい人はでてこないんですけどね。
H：ふんふん。掃除に来てくれる人っていうのはしょっちゅうきてきれいにしてくれはるわけですね、その掃除のおばさんは、まあ週に何回か。
Ｋさん：えっと…１０棟のうちに２人いてはるくらいて聞いたと思うんですけど。
Y：ああ、そうですか。
Ｋさん：それでまあ順番に、
Y：毎日来てそれをずっとまわってやってはるんですか？
Ｋさん：どっかはね。
Y：ああ、どっかはね。ふーん、そっか。
Ｋさん：今も会社とか行ってるとか分からないんですけど、今も来てはる人はね、もうきれいですね、今日ね。
Y：掃除の仕方が？
Ｋさん：はい。その前はねーどうしたかねって思うほど、お掃除教えてあげなあかんのかなってくらいね、ひどかったですね。んで、男の人がそのあと男の人が入られて、その男の人がまた几帳面にきれいににされていくんですね。
Y：うんうんうんうん。
Ｋさん：みーんなも一感激！みたいな。
Y：ふーんふんふんふふふ。面白いそれは面白い。
Ｋさん：ふふふ。そんな感じでしたかね。
Y：ふんふん。なるほどなるほど。
Ｋさん：その人もまあ、脱サラかどうかはわかんないんですけど、お仕事のそういうのするお仕事についてね、
Y：なるほどなるほど。
Ｋさん：自分なりに葛藤があったみたいですけど。
Y：ふんふん。
Ｋさん：しながらっていうともう今年３年くらいじゃないですか。
Y：ふん。あんまりきれいにしてくれるのも、そうすると自分で何かをするという機会を失ってしまうのでかえってあの、善し悪しということもあるというようなことがありますね、今のね。みなさんなるべくまあ自分でやりたくないという気持ちと、やっぱり自分でちょっとしたらという気持ちと両方持っておられるでしょ。で、その辺のところの自分でやろうかっていうところをなくしてしまうんで、あんまり丁寧にやってもらったら。
Ｋさん：まあねーそれはあのね、まあね細かい話ですけどね、ふふふ、ゴミ袋要りますよね。そのゴミ袋が一つできたらね、市役所もっていってもらうのが１００円いるということだったんですよ。
Y：はあはあはあ。
Ｋさん：はい。それでいっぱいみんなが集めてもらうと、その分自治会からようけ出さなあかんでしょ。
Y：ふん。
H：ああ。
Ｋさん：一袋１００円出さないとね、いけないんですよ。
H：それ自治会がだすということで…
Ｋさん：はいまあそれでね、きれいにしてくれはったらそんなに対処しなくてもいいんやないかっていうことだったと思うんですけど。
Y：それはその１００円の出す回数が減るという。
Ｋさん：そーですね。
H：あーなるほど。
Ｋさん：それできれいにお掃除してくれはるしっていうことだったんですよ、せやからもーいっぱい詰めてくださいって。
一同：笑
H：逆に１００円もらわないけませんよね。
一同うんうん。
H：おかしいなあ。
Ｋさん：ハハハ、そういう感じでね。
Y：なるほどね。
H：それでまあ、自治会費が１００円ずつたまっていくなら、そっちが正しいよね、ふふふ。そのね、お金払うんならね、そっか…
Ｋさん：だからもう、まあ行事は自治会が今までしてはった分は、最低限やっぱりこれはもうやめたらどうなんって思ってても、それはもうしていかんことにはまあ、あれみたいですし、それをせんかったら市役所からそういうの下りないんですかね。
Y：はあはあはあ。
Ｋさん：ね、だからそれもしはるんでしょうけどね。
Y：ふんふん。行事といえば、自治会というかな管理組合っていうんかな、お祭りみたいなことやったりというのは、あったら出て行かれるんですか？
Ｋさん：まあ、はい。
Y：あそこ盆踊りやってたんちゃうかな、そうやなかったかな？
Ｋさん：夏祭り…
H：うん、夏祭り。
Ｋさん：このごろあんまりね、行かなかったんですけど、あった時はおでんを売られるってね。まあおでんを買いに行くって感じですけど。
Y：うん。
Ｋさん：はい、まああんまり行かないですけど。でもあれはみんなが楽しみにしてはるんで、あの時すごく多いですね。

A：人もすごくいっぱい来るみたいですね、この前自治会の人としゃべってたんですけど。この間僕も入って、最近、んでお前も手伝えって言われて。
Y：手伝った？
A：えっと、その夏祭り手伝うっていう約束はしたんですけど。で、なんか出店とかもいっぱい出て、いっぱい人も来るっていうふうに聞いてますね。
A：まあそうやってね、顔を合わすっていうのはねいい機会でね。
Kさん：だからまあ最大の行事はそれですかね。で、バスツアーであるんですけど。
Y：バスツアー。
Kさん：はい今年はしお…潮干狩り。
A：もう今貼ってましたね。
Kさん：あれですね、で去年は映画村やったんですよ、はい。そんなんで一年にいっぺん行かれる。
Y：そういうのに行かれます？行かれたことはあります？
Kさん：これから行くように努力しよう、参加しようってだけですけど、ふふふ。って言ってるんですけど、去年行ったんですけど、今年はそれは行きたくないなあと、ホホホハハハ。
Y：行きたくないと？
一同：笑
Kさん：あれなんですけど。あれはまあ子供さんいてはったらその人らが楽しみやないんかなあ。
Y：まあそうですね。うん。まあお元気だから自分でひょいと出かけていくということの方が気楽に行けるっていうようなことがあるかもわかりませんね。
Kさん：わたしあの自分一人では大阪とかよう行くんですけどね、そういう分はね、行くんですけど、でも、そういうのなかなかね。
Y：やっぱり町へ向けて出かけていくといったら大阪に向いてますか？
Kさん：そうですね、やっぱり会社がそっち向いてたりですから。
Y：ふん。
Kさん：あの、京都はあんまり。
Y：行かない？
Kさん：まあ通りだけですかね。大丸くらいまでだけですかね。
Y：なるほど。まあご実家も大阪の方やし、あのご主人の会社も大阪の方やし。やっぱり大阪向いてます？生活は。
Kさん：そっちのほうが今でもどっちかっていうと迷いなく行けますね。
Y：ふんふん。
Kさん：はい。
H：車はもってらしたんですか？駐車場と車は。
Kさん：車！車はね、それこそ乗る間がね、無くってですね～へへへ。ほんで便利でねあの、この、ここらへんの…
A：あーそうかそうか。
Kさん：無くってもね、いけるってところがあるじゃないですか。まあ仕事で別に車使うこともないですし。
Y：うん。
Kさん：で、遊びのときとかっているんですけど。でもその遊びでどうとかってより、家族でどっか行くっていう時はまあ、今さっきも言いましたようにありませんよね。土日祭日ていうのが、いてませんから。
Y：はい。
Kさん：そんなんで、車はしいていらへんかったんですよ、はい。んでまあ、実家帰る時は便利でいいんですけどね、
滋賀県ですから。でもまあ電車で行っても三時間くらいですしね。
Y：はい。
Kさん：だからまあそういう感じで。私もそういうの怖いですから、乗りたいって気持ちはなかったんですよ。
Y：まあ電車で行っても、まあそこは便利に行けるわけですから、そうかもわかりませんね。
Kさん：まあね、混んでるときでも電車やったらどこでもスイスイスイっといけますしね。
Y：そうや、うん。
Kさん：誰かえらい目せないけませんもんね。
Y：そうそうそう。一人犠牲にならな。
Kさん：でもあったらあったで便利なんでしょうけどね。
Y：癖ですねあれは。使いだしたら使うし。
Kさん：でなんかあったときは実家から迎えに来てもらうとか送ってもらうとかね。
Y：うん。
Kさん：まあしてるので。不便はなかったですね。
Y：まあおしなべてすごく快適にずっと過ごしてこられて。これからも快適になりそうだという、そういう感じですね。
Kさん：そうですね～。でもこの頃そういうように無くなるかもしれんよって、ほらなんとか、えっそうなん！？ってなんとなくこうざわざわした気持ちに。
Y：ふーん、そんな簡単に無くならへんでしょう。
Kさん：ふふふ。でもなんか気持ちのなかでざわざわして。で、これから、えっ１０年たったら私いくつって、そんなことばかり、ふふふ。
H：無くなりはせんでしょうね。
Kさん：んでまああの、近所の人はね、誰でも入れるっていう風になってましてね。自分らが入った時はいろいろ審査もありね、いろいろがあったから、まあそれはそれなりの。このごろだったら誰でもそう家賃さえ払えばね、そういう感じだったらいろんな人が入ってはる。よくものを拾ってきて、洗って売りに行きはるんですけど、それを持ってきて上へドロドロドロドロ上がっていき歩いてね、それがまたやたら誰でもええん言ったら、ええんちゃうわって話がありましたしね。
Y：うん？
Kさん：だから誰でも、だからまた知ってる人が住み分けって言ったらあれがあってくるんだけどね、差別の部分ね、なってくるけどやっぱりそのように、あのー、まあしてもらいたいっていうようなことは言われてましたみたいですね。
Y：なるほどね。
Kさん：このごろだったらいろいろされてる方ありますね。出られてる方もいますよね。そういう人でもまあ目立つんですよね。離婚してて、こんで一緒になってても一緒に住めばいいんやないって思ってても、それを受

けてはるもんで、お互いが受けてはるから　一緒になったら一つになりますやん。
Y：はいはい。うんうんうん。
Kさん：でまあ、そういう人って結構来てはるんですけど、そういう感じで。そうなってきたらなんとなくもっとあれだし。そういう人って結構いてはるみたいなんですよね。
Y：なるほどね。
Kさん：でまあそんなんで、ちゃんとまあ、こう住み分けをね、するっていうのはまああれかもしれんけどしてもらったほうが、そうでなかった人がいいんですよね、ほんまの話ね。
Y：はいはいはい。
Kさん：あの、なんかその言われてますね。
Y：ある程度、同じようなグループの人と一緒に住んでるほうが安気なというか、そういうことがおありなんですかね。
Kさん：まあ外から見たときに一緒にされるっていうんですよ。そういう風にね、言われてましたね。
Y：はあはあ。なるほど。
Kさん：んでまあ、表札もないし。
H：やっぱ最初は選ぶし自由性があるし、一番いい場所やってみんな集まっていたころと、今だんだんいろんな人がね交じっていく、違う時代やな。
Y：それはそうですね。当時公団入られた方もピカピカのすごく新しい建物に入るというね、気持ちがあったと思いますしね。
Kさん：それとかね、年収とかね。
Y：年収ね。チェックありましたもんね。
Kさん：でこう、出してですね。
Y：今は保証金もいらんし。
Kさん：いただけるとか。
Y：うーん。
Kさん：あんなんもうおかしいとかいう話でしたけどね。だから、誰でも彼でもやなくって、もうちょっと違う、今みたいなやり方じゃなくってね、してほしいって言われたみたいでね。
Y：なるほどね。それはどないしてチェックしたらいいんかな？それは公団が募集しとるときにチェックするとかですか。
Kさん：あのね持って行って、ほんまの話かと思ってたんですよ。こないだ市ですか、ゲートの人がですね、他の人、６０いくつかの人が入ってまだ１，２年くらいの人ですかね、その人が言ってはったのには、貯金通帳を見せてくださいという。
Y：預金の残を見せろと？
Kさん：はい。それでずーっとでもなくってですけどね、
Y：今日だけあればいいですけどね。
Kさん：あればいいですけどね、ふふふ。貯金通帳見せてほしいって。えっそんなん見せなあかんのっていう話があったんです。
H：あのーUR の賃貸はまあ、家賃は場所によっては安いところもありますんでね。かなりあの、普通の周りの賃貸マンションよりも公団賃貸の方が家賃が安いところもある。ここはそうでもないかもしれんけど、あるからあの、行き場所のないそのさっきのこのちょっと良くない方の、どこも行き場所のない人たちの行き場所が最近無くなってきてて、公営住宅も無くて公団賃貸が、それを福祉的に受けたげてるところもあるんでしょうけどね。
Y：うーん、なるほどね。
A：うーん
H：ちゃんと住むルールとかやっぱり、そこをね、しっかりしないと。入れるだけじゃあいけませんね。
Kさん：そうですね。この間の友達も何かこう、破産をしたってね。
Y：うん。
H：うん。
Kさん：破産をしたからね、今度ここへ来ようと思ってるんやけど。
H：なるほど。
Kさん：へへへっ
H：そう、ふふふ。
Y：ふふふ。
Kさん：だからね、まあそんなん受けてる人、普段そんなん言うてね、それやから行こうと思っている人もそういう感じにして来ると、まあそうでなくってずうっと来ている人っていうのもね、えー？と思うところもやっぱりね、あるんですよね。
H：うーん。
Kさん：で、それも外から見るともうそうなったらそこに入ったらええねやっていう。
H：そういう安心感あるのかもしれませんね。
Kさん：ほんで今あのー、0 で何とかでって、保証金無しでとかって色々書いてますよね。そしたらもう、ああいう人かって心配ないやんという、ところが。
H：じゃあそういう役割はあるんや。まあそう、ちゃんとね皆がきちと住めなきゃいけないんけど、そう言う結論になって。
Kさん：だからあのー、古く住んでいる人はなんかそれなりのルール分かってるんで。
Y：はいはい。
Kさん：みんなまあ、どうしていい？これどうとかっていうのがあるんですよね。
H：うーん。
Kさん：でも、後から来た人たちってのはそんな感じでね、何かその人らの方が何か威張ってるん？っていう感じのね、何か態度横柄やなっていうところもね中にはある。
H：ほんとはでも長く住んでてしっかりしてる人が半分なりおるから、うまくまわってってね。そんな人ばっかりになったらまた荒れてくるだけのはずやから。
Kさん：そう、
Y：うーん。
H：そのへん分かってないんやな。
Kさん：何かね、そう言われてましたですけどね。
Y：なるほどね。
Kさん：はーい。
H：もっとね、公団も長く住んでる人を大事にするシステムを作らなきゃいけないはずなんですよ、うん。
Y：うん。
A：そうですね。

Kさん：うーん。
だからまあ色んなねこんな、でも私思うんですけど、いろんな事件とかありますよね、だけどここにいっぱいまあ他所もですけどしてるけど、そういう事件てのは割に少ないんじゃないかなっといっつも私は思ってるんですけど。
Y：あーそうですか。
Kさん：よう載ってますよね、テレビでも新聞でも。
Y：うーん。
Kさん：でもまあたまにはもちろん、あのそういうのもあるんですよ、あるんでしょうけどね。でもそんなに他所でどこどこ、どこどこっていう感じじゃ、こんだけ住んではっても無いん違うのかなーと思ってるんですけどね。
Y：うん。
Kさん：ほんとやったらもうそれこそ音の事から始まってですね。
Y：うん。
Kさん：色んな事があると思うんですけどでも、無いよなーと思って。
Y：いやぁね。
Kさん：そういう風に思ってね、まあ民間だと余計色んな人が入ってきますよね。
Y：うん。
H：うん。
Kさん：だからそう言うのにおいても良いやないって、安心と言うか。
Y：まあ穏やかな所っていうことですわな、それね。
Kさん：はい。
H：やっぱり丘の上っていう、丘、丘の上だし、なんとなく気持ちが良いのかな。丘の上に住む。
Y：それはやっぱり
H：地中海沿いの丘の上っていう
Y：うーんそういうところの方が
H：風も通るし日も当たるし
Y：おおらかなな気持ちと言うか
H：気持ちがおおらかになるのかな。
Y：うん。
Kさん：そうですね、あのーここで歩いてる時はどうってことないんですけどね、私実家に帰るとねほんま、地を歩いてるって感じがするんですよね。
A：あー。
Y：はいはいはい。
Kさん：はい、普通こう、こうまあ家は平地ですけどね、だけどね歩いてるとなんかもう、何か同じ道路を歩いているんですけど何かそういう、もうそんな感じするんですよ。
Y：あー。
A：ふーん。
Kさん：で空気も違う感じがするんですよ。
Y：なるほど、うん。
Kさん：何か凄く。
Y：うん。
H：それはどういう、良い悪いで言うたらどんな？
Kさん：まあ、あの私、まあ母親なんかはまあそこにね長いこと住んで、私ところへしばらくちょっとだけ３カ月か居てたんですね。でもそれのあれもあるんですけど、ここへ来た時、静かいうこともありますし色んな事やかって、ホームシックやないんですけど、何か電話もかけられなくなってきたんですよね。
Y：うん。
H：うん。
Kさん：あの、まああの時は 90 ぐらいでしたけど、でそんなんだったんですよ。えーちょっとボケてきたん？ていう感じやったんですよ。ほんでまああの娘はもう昔の名前で母親を呼んでた感じやったんですよ、ほんだらもうハーイとか言うてやってたんですよ。それをもうそんなあれやから言うて実家の方に帰ったんですね、そしたら私も思ったんです。空気が何かなんとなく違うんですもう、どう言うたらいいか。
Y：うん、なんかそういうの分かりますわ。
Kさん：はい、うんそうしたらね、家帰ってからですね、電話がかけられなかったのにですね電話も、姉が沖縄に居てるんですけど沖縄にもちゃんと電話掛けられるんですよ。
Y：ちゃんと元に戻った。
Kさん：はい、でここにいてた時はねあの、まあ一人で行こうと思ったけどここ坂が多いですよね。
Y：うん。
Kさん：ほなら一人で知らんところやし、行かれませんわね。
Y：うん。
Kさん：だからそういうのって、だんだんだんだんもう悪うなってきてですね、でまあ家の方に帰ると、まあご近所も知ってはる人もありますし、まあまあそういうのもあるんですけど何か気分的に。
Y：うん。
Kさん：で私の中では年いってきてから、他所のまあ、長生きしようと思ったらね、他所の土地いったらあかんと。
A：うーん。
Kさん：思ってるんですよハハ。
Y：そうですよ、なれた所におらなあきませんわ。
Kさん：そうですよね。どんな良いところでもね。
Y：うん。
Kさん：年いってから離れたらあかんと思ってるんですよ。
Y：逆もありますよね、そのお母さんはこっち来られて、あんまりにものんびりしてるから具合、ちょっと調子悪なったとか。
Kさん：ええ。
Y：逆に奥さんが向こう行かれたらあのー、またやっぱり男山へ帰りたいいうようなことになってくるとかね、いうことあるんでしょうね。
Kさん：うーん。
Y：やっぱこっちの方が、おおらかでのんびりしてるし。大阪の方が緊張感がありますわな。
Kさん：そりゃもう車にしてもですね、まあ色々言うとね、そりゃもうそうですよね。
Y：なるほどね、それってほんとに大事なことやな。
Kさん：でどうやと言うたてそりゃ良いとこかもしれんけどその、年いってからではあかんでとか言ってね、うん。で九州から寄せはった人でもやっぱり 2 年ぐらい

したらやっぱり、まあたまたまかもわかならいですけどやっぱり 2 年ぐらいでしたですね。
Y：うん。
H：うーん。
Ｋさん：だからやっぱり寂しさもありますしね。
Y：そりゃそうですね
Ｋさん：思ってるんですけどね。
Y：それはもう、その空気が、空気が変わるだけやなしに人間の関係とかまあ色んな事を含めてね。
Ｋさん：はい。
Y：やっぱり環境が変わるということやからと思いますけど、あのどうぞ、ここで長生きしてください。
K さん：ふふふ。
H：まだまだお若いから全然。
Ｋさん：いえいえもう年でね、もうあの今までやったらいくつになったら、何年したらいくつって思いますよね、この頃はでも言いたくないですね。
A：はは。
Ｋさん：怖っと思ってですね。
Y：：まだまだ。
A：まだまだですよ。
Y：どうも、今日はありがとうございました。
A：ありがとうございました。
Ｋさん：いえ、すいませんもうしょうもない話ばっかりでもう、申し訳ないです。
H：助かりました。
Ｋさん：すいませんね、しょうもない話で申し訳ない。
Y：いやいやいや、楽しかったです。ありがとうございます。
Ｋさん：もう初めから言うとったんですよ、わたし為になる話何もないよ言うてね。
H：それが良いんですよ。
Y：そんな構えた話はもういりませんねん。
Ｋさん：フフ。
A：ということでありがとうございました。
Y：どうもありがとうございました。
H：ありがとうございました。

以上